

【第1号議案】(報告事項)

平成28年度事業報告に関する件 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

I. 事業の状況

金子 明会長のもと、本年度も、「魅力ある学会」として、軽金属学会のプレゼンス向上、会員拡大を図り、さらに、日本の軽金属分野の更なる「技術革新」を目指して、研究開発活動の推進に中心的な役割を果たすとともに、その基盤となる「人材確保と人材育成」に取り組み、国際交流等を通じて「国際化への対応」を推進する種々取組を実施した。二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業 R&D 支援プログラム」として、各支部においては無料講習会・セミナー、研修会、見学会、企業奨励表彰などの行事を行い、会員サービス向上による会員基盤増強を実施した。また、春秋講演大会においても、ユーザー企業参加促進策として企業交流会、日本アルミニウム協会賞受賞企業の招待講演、展示等を実施した。研究開発活動は16研究部会が活発な活動を展開し、ホームページでの情報発信、部会への学生委員参加促進を行った。学会誌「軽金属」では論文投稿の促進策として、カラーページ半額化、投稿・掲載料を無料化する投稿勧誘制度を導入し、PR チラシ配布による会員への周知徹底を図った。この他、連載講座「入門 軽金属の生産技術～アルミニウムの上工程から下工程まで～」、「年間レビュー」、「私の一枚」、「維持会員紹介」、「学会便り」、「支部便り」、「はぐむ」などの論文・解説以外の記事充実を図った。人材育成については大学オープンキャンパスへの軽金属製品提供を今期も実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。さらに、学生会員の就職支援事業としてWEB上にライトメタルリクルートサイトを構築し、維持会員企業18社の採用情報を提供した。また、大学研究室での中高生向けイベントとの連携策強化を検討した。国際交流事業は、2022年のICAA(International Conference on Aluminum Alloys)18誘致準備、ALMA(Asian Light Metals Association) Forum 2016 & Meeting の京都開催、富山大学主催の先端材料研究フォーラムの共催行事として、海外研究者15名を招いた第12回軽金属国際ワークショップを開催した。この他、上記の学会活動をより一層充実させ、学会発展、社会貢献につなげることを目的に本学会のホームページ全面改定による情報発信強化を検討した。

[1] 研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋講演大会の開催

1) 第130回春期大会

会期	: 平成28年5月28日、29日	
会場	: 大阪大学吹田キャンパス	
実行委員長	: 南埜直俊(大阪大学)	
定時総会	: 平成28年5月28日	
研究発表講演	: 平成28年5月28日、29日	141件発表
ポスターセッション	: 平成28年5月28日	59件発表
表彰式	: 平成28年5月28日	
懇親会	: 平成28年5月28日(千里阪急ホテル)	
見学会	: 平成28年5月27日	シマノ・サイクル開発センター自転車博物館、大仙公園日本庭園 15名参加
機器・カタログ展示	: 平成28年5月28日、29日	9社参加
企業交流会	: 平成28年5月28日、29日	9社参加

2) 第131回秋期大会

会期	: 平成28年11月5日、6日	
会場	: 茨城大学水戸キャンパス	
実行委員長	: 伊藤吾朗(茨城大学)	
研究発表講演	: 平成28年11月5日、6日	145件発表
ポスターセッション	: 平成28年11月5日	59件発表
表彰式	: 平成28年11月5日	
懇親会	: 平成28年11月5日(ホテルレイクビュー水戸)	
機器・カタログ展示	: 平成28年11月5日、6日	9社参加
企業交流会	: 平成28年11月5日、6日	10社参加

2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催平成年月日	開催場所	参加者数
1	第98回シンポジウム「マグネシウム材料の新展開」～マグネシウム合金の研究開発の現状と将来展望 女性研究者・技術者の活躍～	28年6月3日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	27名
2	第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第5回	28年6月10日	富山大学五福キャンパス	15名

3	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－中級編(時効析出)」第 3 回	28 年 7 月 8 日	名古屋大学環境総合館 レクチャーホール	27 名
4	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－応用編(加工・熱処理による組織変化)」第 1 回	28 年 9 月 2 日	早稲田大学西 早稲田キャンパス	49 名
5	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	28 年 9 月 15-16 日	ヤマハリゾートつま恋	37 名
6	第 99 回シンポジウム「加工と熱処理による優先方位制御研究部会」	28 年 11 月 28 日	日本大学駿河台キャンパス	25 名
7	第 100 回シンポジウム「押出加工および鍛造の予測技術」～工程・工具設計のためのシミュレーション技術～	28 年 12 月 6 日	日本大学駿河台キャンパス	35 名
8	第 101 回シンポジウム「多機能性アルミニウム材料の開発と応用」～素材に息吹を与える多機能化～	29 年 1 月 17 日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	25 名
9	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－中級編(時効析出)」第 4 回	29 年 1 月 27 日	キャンパスプラザ京都	23 名
10	第 102 回シンポジウム「こんなことまでできるの！アルミの表面処理で！！」～新機能を発現するアルミニウム合金表面処理の最新情報～	29 年 2 月 17 日	工学院大学新宿キャンパス	39 名
11	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－入門編(状態図と組織)」第 6 回	29 年 3 月 3 日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	44 名
12	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－応用編(加工・熱処理による組織変化)」第 2 回	29 年 3 月 10 日	名古屋大学環境総合館 レクチャーホール	25 名

[2] 国内外における研究協力・連携の推進(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

1. 国際交流

1) ICAA(International Conference on Aluminum Alloys)15

平成 28 年 6 月 12 日～16 日に中国・重慶で開催された ICAA15 において、本学会を代表して、東京工業大学・里 達雄名誉教授がプレナリー講演、株式会社 UACJ・田中宏樹氏が基調講演、日本大学・久保田正広教授、富山大学・松田健二教授が招待講演を行った。また、会期中に開催された国際委員会において、国際委員の東京工業大学・熊井真次教授、軽金属溶接協会・相浦 直専専務理事から 2022 年の日本誘致(富山開催)の意思表明を行い、次回カナダモントリオールで開催される ICAA16 の国際委員会審議で正式決定となる予定。

2) ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2016 & Meeting

平成 28 年 8 月 6 日に中国、韓国、台湾、オーストラリア、ノルウェー、カナダから 10 名の研究者を招き、京都(京都テルサ)にて開催した。一般参加者 12 名を含め 50 名が参加した。

(1) ALMA Forum 2016

日本、中国、韓国、台湾、オーストラリア、ノルウェーから 10 名の軽金属材料に関する研究開発事例報告があった。

(2) ALMA Meeting

次回 2018 年東京開催、Forum の規模・内容、平成 24 年 10 月に開設した ALMA ホームページの利用方法について協議した。

3) 第 12 回軽金属国際ワークショップ

平成 28 年 10 月 13 日～14 日に、富山大学第 2 回先端材料研究フォーラムの共催行事として第 12 回軽金属国際ワークショップを開催した。以下の 16 件の講演を行った。

① 「アルミニウム合金の析出核の原子レベルでの制御と低比重ハイエントロピー合金の可能性」

Prof. Gary J. Shiflet, バージニア大学(USA)

② 「マイクロアロイリング元素を含む Al-Zn-Mg 合金のナノクラスター支援組織」

東京工業大学名誉教授、里 達雄 先生

③ 「時効硬化型アルミニウム合金における析出物の(S)TEM 研究」

P Prof. Randi Holmestad, ノルウェー科学技術大学自然部物理学科

④ 「タイにおける大学の材料研究と国際連携への道」

Assoc. Prof. Chaiyasit Banjongprasert, チェンマイ大学(タイ王国)

⑤ 「微細結晶粒材料－輸送・エネルギー・バイオ工学応用に対する将来性－」

Prof. Malgorzata Lewandowska, ワルシャワ工科大学(ポーランド)

⑥ 「鉄鋼材料における旧式成形技術から巨大塑性加工技術へ」

Prof. Tibor Kvackaj, コシツエ工科大学(スロバキア)

⑦ 「X80 パイプライン鋼の硫化水素腐食とその接合」

Prof. Yong Zou, 山東大学(中国)

⑧ 「アルミニウム合金の加工熱処理時におけるマイクロ組織の特性とモデリング」

Prof. Knut Marthinsen, ノルウェー科学技術大学工学部材料工学科

⑨ 「新しい反射・透過モード走査低エネルギー電子顕微鏡」

Dr. Iona Mullerova, チェコ科学アカデミー 科学機器研究所

⑩ 「繰返し高温酸化条件での B および C を含む Ti-Al-Nb 合金の特性」

Prof. Kazimierz Przybylski, AGH 科学技術大学 (ポーランド)

- ⑪ 「三次元透過電子顕微鏡法とその場変形観察法の融合を目指した産学協同開発」
Assoc. Prof. Mitsuhiro Murayama, バージニア工科大学 (U.S.A.)
- ⑫ 「粒状マイクロ組織を持つ SPD 法で作製した 7075Al 合金および B 添加した半溶融プロセス法で作製した H18 鋼と改良ハドフィールド鋼における析出」
Prof. Jan M. Dutkiewicz, ポーランド科学アカデミー 冶金・材料科学研究所
- ⑬ 「先端粉末冶金成型法」
Assoc. Prof. Robert Bidulsky, コシツェ工科大学(スロバキア)
- ⑭ 「グリーン土木建築用素材」
学科長 Assoc. Prof. Kedsarin Pimraksa, チェンマイ大学(タイ王国)
- ⑮ 「Ar-H₂-H₂O/大気系反応雰囲気における SOFC の応用に対して設計された金属/セラミックス層状システム」
Dr. Mirosław Stygar, AGH 科学技術大学 (ポーランド)
- ⑯ 「6016 および 6960 アルミニウム合金の硬さとマイクロ組織の評価」
Dr. Calin D. Marioara, SINTEF (ノルウェー)

2. 産学官の連携

経済産業省製造産業局非鉄金属課長 井上幹邦様、金属課金属技術室室長 坂元耕三様にそれぞれ、第130回春期、第131回秋期大会懇親会にご臨席、ご挨拶賜り、当学会役員との意見交換を行った。また、参与会を2回開催し、昭和電工(株)鋳造・押出工程、昭和アルミニウム(株)の製缶工程、国立研究開発法人産業技術総合研究所(つくば東事業所)の3Dプリンタ設備の見学を通じて、産学官の密接な連携のもとに、軽金属の将来に対する意見交換を行い、ユーザー側からの助言を得た。また、昨年に続き、国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センター構造材料研究部門から研究開発事業に関する提言を求められ、本学会の研究部会との連携等々、要請した。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会の主催により開催された産学懇談会に出席し、情報交換を行った。日本アルミニウム協会の研究助成事業の約 30 件の研究の大部分を講演大会で成果発表した。また、日本アルミニウム協会賞受賞企業 4 社を第 131 回秋期大会「企業交流会」に招き、受賞技術の講演、製品展示を行い、会員との交流を深めた。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業にも参画いただき、平成 29 年度に子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子 300 部供与、重量比較サンプル供与の協力を得た。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

一昨年度より立ち上げたマグネシウム、チタン関連の研究部会を継続し、研究連携を実施した。軽金属溶接協会とは溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、平成 29 年 5 月開催の第 132 回春期大会ポスター発表に軽金属溶接協会からの表彰も行うこととした。

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本学術会議材料工学連絡委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などの協力を積極的に行った。

[3] 学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 66 巻 4-12 号、第 67 巻 1-3 号までの 12 冊を、うち、第 66 巻 5 号は特集号「難燃性マグネシウム合金展伸部材創製のための最新技術開発」、第 66 巻 11 号は特集号「結晶方位解析とその応用」として刊行した。掲載内容の分類は以下のとおりである。

区 分	編数	区 分	編数	区 分	編数
巻頭言	3	連載講座	8	支部編集特集	46
研究論文	39	新製品・新技術紹介	0	はぐくむ	8
技術報告	3	随想	2	研究部会紹介	0
解説	17	LM コラム	6	学会便り	15
研究ノート	0	研究室/研究所紹介	1	支部便り	14
LM レビュー	0	維持会員紹介	2	私の一枚	12
年間レビュー	9	国際会議便り	6	掲載総数	191

2. 研究部会報告書の発行

一昨年、今年度終了した 2 部会の部会報告書を発行した。

No.	名 称	発行平成年月日
66	成形性評価シミュレーション技術開発部会報告書 「アルミニウム合金板材の成形シミュレーション高精度化技術」	28 年 5 月 27 日
67	加工と熱処理による優先方位制御研究部会報告書 「加工と熱処理による優先方位制御」	28 年 11 月 28 日

3. その他刊行物

名 称	発行平成年月日
第 130 回春期大会講演概要集	28 年 4 月 28 日
第 98 回シンポジウム「マグネシウム材料の新展開」 ～マグネシウム合金の研究開発の現状と将来展望 女性研究者・技術者の活躍～	28 年 6 月 3 日
第 131 回秋期大会講演概要集	28 年 10 月 5 日
第 100 回シンポジウム「押出加工および鍛造の予測技術」 ～工程・工具設計のためのシミュレーション技術～	28 年 12 月 14 日
第 101 回シンポジウム「多機能性アルミニウム材料の開発と応用」 ～素材に息吹を与える多機能化～	29 年 1 月 17 日
第 102 回シンポジウム「こんなことまでできるの！ アルミの表面処理で！！」 ～新機能を発現するアルミニウム合金表面処理の最新情報～	29 年 2 月 17 日

[4] 研究及び調査の実施(定款第 4 条第 1 項第 4 号)

研究委員会は成形性評価シミュレーション技術開発部会の後継部会となる「高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会」を加えた 16 部会が活発な研究事業を実施した。WEB 上に各研究部会活動紹介を行い、部会活動の見える化を図った。春秋講演大会での難燃マグネシウム材料に関するテーマセッションや加工と熱処理部会、押出部会、多機能性材料部会が企画したシンポジウムを実施した。また、下表の通り、平成 20 年度に作成した本学会の研究開発ロードマップに加工成形・マグネシウム・チタンなどのテーマを追加し、更新した。当初、16 研究部会ごとにロードマップを作成予定であったが、ロードマップ WG でテーマ区分を検討し、研究部会ごとの狭い領域の個別課題(単なるスケジュール)を示すこととせず、従来ロードマップの技術分野区分を踏襲し、10 テーマとして、本学会が扱う研究内容を網羅し、16 研究部会の研究課題や本学会の将来課題を示すようにした。

平成 28 年度ロードマップテーマ	平成 20 年度ロードマップテーマ
【組織制御】新しい組織制御法・希少金属添加量削減 【表面】腐食・防食と表面処理技術 【接合】接合技術 【CAE】CAE 活用プロセス (casting ~ 加工 ~ 材料特性の一体シミュレーション) 【鋳造】溶解鋳造技術 【高機能化】ポーラス材料・導電材料技術 【加工成形】塑性加工・成形技術 【マグネシウム】マグネシウム材料 【チタン】チタン材料 【リサイクル】信頼性向上技術	アルミニウム合金の新しい組織制御法・希少金属添加量削減 腐食・防食と表面処理の将来 接合技術 CAE を活用したプロセス (casting ~ 加工 ~ 材料特性の一体シミュレーション) 溶解鋳造凝固 超軽量構造用ポーラスアルミニウムの展開 銅代替ロードマップ: 導電材料のアルミ化 大型構造物への適用 リサイクルしやすい自動車用アルミニウム材料 アルミニウム展伸材のクローズドリサイクルシステムと省エネルギー加工プロセス

平成 28 年度の 16 研究部会の活動成果概要を下表に示す。なお、今期終了する加工と熱処理部会とミュオン部会は後継部会設置を決め、それぞれ、「アルミニウムの再結晶集合組織形成モデル化研究部会」、「アルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会」として平成 29 年度から活動を開始する。

No.	部会名	課題	研究成果概要
1	高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会 【開催期間】 平成 28 年 4 月 - 平成 32 年 3 月末	アルミニウム等軽金属材料の成形シミュレーションの材料モデルとパラメータの適正化による高精度化を行い、得られた知見の一般化を追求し、実用部品への適用も可能とする技術確立を進める。さらには、ソフト開発を視野に入れ、国プロへの提案を目指し研究開発を進める。	3 回(平成 28 年 7 月 20 日、11 月 7 日、平成 29 年 3 月 9 日)の研究部会を開催。 ① 共通サンプルの 5022-O(UACJ)、5052-O(日本軽金属)、5182-O(前部会共通サンプル: 神戸製鋼)の集合組織観察を実施。 ② 共通サンプルを用いた二軸引張試験、FLD 評価試験、張出成形評価試験の計画を策定した。 ③ 前研究部会の成果報告と現研究部会取組み内容紹介を兼ねた成形シミュレーションの高精度化技術のシンポジウム開催を計画した。平成 29 年 6 月・7 月に開催予定。 ④ 国プロ採択に向けた「エネルギー・環境新技術先導プログラムにおける研究開発に関する情報提供書」を NEDO に提出したが採択には至らなかった。NEDO・経済産業省への提案を継続することとした。

2	<p>加工と熱処理による優先方位制御研究部会</p> <p>【開催期間】 平成24年4月-平成29年3月末(1年延長)</p>	<p>加工と熱処理による新しい集合組織制御技術の構築を目指して、実現可能な優先方位の組合せによる大幅な特性改善の可能性を見出すこと。</p>	<p>4回(平成28年6月9日、10月6-7日、11月28日、平成29年3月13日)の研究部会を開催。</p> <p>研究成果を研究部会報告書 No.66「加工と熱処理による優先方位制御」にまとめ、これをテキストとした第99回シンポジウムを平成28年11月28日に開催した。また、会誌「軽金属」特集号(平成28年、第66巻11号)「結晶方位解析とその応用」に成果を公開した。研究部会最終年度の研究成果を以下にまとめる。</p> <p>①アルミニウムの汎用変形集合組織予測プログラムを作成。プログラムの動作検証用データとして断面形状が異なる押出材の集合組織データを準備した。</p> <p>②アルミニウムの再結晶集合組織形成のモデル化を支援する実験データを収集した。</p> <p>③曲げ加工性や深絞り性等の板材成形性を実測の再結晶集合組織から予測できるようになった。</p> <p>研究成果を引継ぎ、塑性加工を施したアルミニウムの変形・再結晶集合組織予測モデルの構築とその実験的検証、および再結晶集合組織による成形性(曲げ性・深絞り性)の評価を行うことを目的とした、「アルミニウムの再結晶集合組織形成モデル化研究部会」設置を決定した。</p>
3	<p>ミュオンスピン緩和スペクトル法の応用研究部会</p> <p>【開催期間】 平成25年4月-平成29年3月末</p>	<p>ミュオンスピン緩和の研究手法を応用することにより、6000系アルミニウム合金中の原子空孔およびMg-Si-Vクラスタの密度とその挙動、およびアルミニウム合金中での水素の挙動を解明する。</p>	<p>2回(平成28年9月26日、平成29年1月1日)の研究部会を開催。</p> <p>過去4年間で、6000系Al合金に対するミュオンの挙動、とくに熱処理条件、溶質元素との関係のほぼ全容が明らかになり、その利用方法が定着したと言える。この方法とリンクして、時効硬化型Al合金に共通すると考えられる析出の初期クラスタに関する論文発表を行った。これらの成果を、他の時効硬化型Al合金ならびに水素の挙動解明にも展開できると期待される。原子空孔の定量化については未着手であり、J-PARCの陽電子消滅法、磁化率測定法など最新測定技術との比較検討も今後の課題である。そこで、熱処理において時効硬化型Al合金中に生ずる現象の正確かつ精密な把握と、その現象を最大限に生かしつつ、かつ低コスト化に効果的な熱処理技術、新規な熱処理手法を立案し、自動車、鉄道車両、航空機部材として利用可能な熱処理技術を確認することを目的とする「アルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会」設置を決定した。</p> <p>この他、会誌「軽金属」特集号(平成29年、第67巻5号)「空孔・溶質クラスタ・GPゾーンに関する最近の研究」に成果を公開予定。</p>
4	<p>押出組織制御予測技術研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p>	<p>日本の押出技術(製品・生産技術)の高度化と世界との差別化を目的に、組織予測を可能にする組織制御技術の研究し、バラツキ制御、難押出合金の押出条件の最適化を可能にし、製品の差別化に貢献する技術確立を行なう。</p>	<p>4回(平成28年6月10日、10月7日、12月9日、平成29年3月14日)の研究部会を開催。</p> <p>3大学(長岡技科大、千葉工大、日本大)と委託研究契約を締結し、調査研究を実施した。押出シミュレーションに関する第100回シンポジウム「押出加工および鍛造の予測技術」～工程・工具設計のためのシミュレーション技術～を平成28年12月14日に開催した。研究部会の進捗状況を以下にまとめる。</p> <p>①A7003とA6063について、メーカーの実機に近い研究用押出機でのサンプル作成が行われ、大学側で機械的特性、マイクロ観察(FESEM、EBSDなど)、ナノ観察(FETEMなど)を行った結果を討論した。押出材断面内での組織、引張強さ、硬度の違いが示され、数値シミュレーションから温度や変形履歴などとの関連性が検討された。</p> <p>②組織観察については、網羅的に観察を行ったが組織予測のためにどのような観察を行うか絞り込みが必要と考えられる。表面性状との関連の調査は平成29年度に入ってからとなった。</p> <p>③A7003熱間押出の工具面での摩擦係数変化を大学での実験室サイズの押出基礎実験で確認した。実験と比較する数値シミュレーションを実施し、被加工材の加工履歴(ひずみ、ひずみ速度、温度)と製品微細組織との関連を検討した。コンテナにコーティングを施した場合の摩擦係数変化と製品表面性状への影響を調べることにした。</p>
5	<p>アルミニウム板圧延における表面欠陥研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p>	<p>アルミニウム板製品の表面欠陥についての分類から始まり、発生メカニズムの整理、防止策の検討や事例紹介、また、表面欠陥の検出技術についても議論検討しレベル</p>	<p>5回(平成28年5月27日、7月8日、9月30日、12月2日、平成29年2月10日)の研究部会を開催。</p> <p>①欠陥呼称をまとめたが、各社定義の違いや詳細分類による呼称使い分けがあり、まとめただけで一旦中断した。</p> <p>②部会報告書としての表面欠陥事例のまとめ方、仮フォーマットが決まったので、表面欠陥対策に要する各社工数を比較し、欠陥ごとに事例原稿を作成する予定。</p> <p>③欠陥の分類方法(工程別、形態別、要因別など)は、大枠で仮決めした</p>

		の向上を図る。最終的には事例集を中心に報告書を作成する。	が詳細は更に議論必要。
6	新エネルギー向け表面処理研究部会 【開催期間】 平成27年4月・平成31年3月末	新エネルギー分野(太陽、風力、地熱、海洋、シェールガス、メタンハイドレート関連等)向けアルミニウム部材の表面処理について、耐食性、耐候性、耐摩耗性、等の比較調査を行ない、新機能付与の可能性も検討する。環境に配慮した非クロム系処理や自己修復機能を有する塗膜等の最新技術も検討する。	4回(平成28年4月15日、7月14日、10月18日、平成29年2月3日)の研究部会を開催。 ①水素の安全な利用形態に有機ハイドライドがあり、これらエネルギー媒体の耐食性が表面の検討課題と考えられた。 ②過去5回の調査結果を整理し、以下の3分野について具体的な実験計画案を作成する担当者を決めた。 i)各種エネルギー媒体に対する耐食性調査 ii)スケール対策に及ぼす因子調査 iii)暴露試験先調査(地熱・海洋等) ③地熱バイナリ発電スケール対策、海洋温度差発電、エネルギー媒体耐食性などの試験案を作成し、4月までに素材の手配を軽圧各社で完了させることとした。 ④海中暴露(土木研)、アンモニア試験(佐賀大海洋研)、バイオ燃料試験(モレスコテクノ)で外部の協力得ることとした。
7	水素と力学特性研究部会 【開催期間】 平成27年4月・平成31年3月末	原子状、分子状の水素が5000系、7000系アルミニウム合金の力学特性に及ぼす影響、およびこれらを制御することによる力学的特性改善法などを対象とする。情報交換を通じて力学的特性改善の実現を追求する。	3回(平成28年7月29日、11月30日、平成29年3月13日)の研究部会を開催。 ①内部講師(3件)および外部講師(3件)による基調講演を通し、水素と力学特性に関する基礎および最新の研究成果の理解を進めている。今年度は、特に水素関連欠陥、第一原理計算による水素トラップおよび水素脆化挙動に関する理解が深まった。また、これにより各研究項目の方向性を議論している。また、実験施設の見学(大学1件)も研究会開催に合わせて実施した。 ②共通試料として定めた10%Mg-5083合金および10%Zn-7075合金の研究を各所で開始した。特に、10%Mg-5083合金のSCC特性、10%Zn-7075合金の水素脆化特性、析出水素ポアの時間発展挙動などについて有意義な議論があった。 ③共通試料を用いた研究の加速のため、岩手大北條委員および戸田部長を中心として、九大、岩手大、および上智大Grが大型放射光施設SPring-8で行った水素脆化挙動の3D/4D可視化データの解析を進めた。また、追加の可視化実験を行った。
8	アルミニウムの凝固・微細化・清浄化研究部会 【開催期間】 平成27年4月・平成31年3月末	アルミニウムおよびアルミニウム合金の凝固組織の等軸晶化・微細化に関する改めでの検討を通じて、微細化に寄与せずに介在物化するTiB ₂ のメカニズム解明を行うとともに、介在物除去研究も行う事で、より高品質な製品製造に寄与する研究を行う。	4回(平成28年4月22日、7月22日、9月15日、12月22日)の研究部会を開催。 ①共通試料のA社Al-5%Ti-1%B微細化剤を含め、海外材、現行企業使用材の10種類の微細化剤の成分分析、TiB ₂ 粒子分布調査を行った。 ②部会の産学協同試験(AA-TP1 準拠微細化能試験)を香川高専において実施し、産学協同試験の詳細な実験条件や試験手順が確定された。 ③小規模試験(AA-TP1 を模擬した少量の溶湯を用いた試験)を名古屋工大で実施した。②同様、試験手順確定を目指す。 ④微細化剤試料の一部について、SPring-8における等軸晶形成過程のその場観察を実施した。
9	異種材料接合・界面研究部会 【開催期間】 平成27年4月・平成31年3月末	異種金属、異種材料の新しい接合プロセス、接合材の組織と特性、接合メカニズムの基礎と応用を検討し、評価技術の確立ならびにデータベース化を推進する。	3回(平成28年8月10日、11月9日、平成29年1月11日)の研究部会を開催。 ①異種材料接合技術の現状について、大学、企業から5件の報告をいただき、情報共有、問題認識の共通化を図った。 ②部会の目的、方向性について議論を重ね、産業界から当部会に求められる異種材料接合に関する研究課題は各種材料の組み合わせや接合方法について接合メカニズムを詳細に調査し評価することであると共通認識に至った。 ③共通試験材料を用いた各種接合法での実験については、材料によって選択できる接合法が限定され、接合装置によって材料の寸法が限られるため、対応策を検討する必要がある。 ④平成29年9月22日に第106回シンポジウム「軽量化を実現する異種材料接合技術」—軽金属材料と異種材料の複合化—の開催を決めた。 ⑤平成30年には講演大会でのテーマセッション開催を計画した。

10	チタンの準安定相・析出相研究部会 【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末	チタン中の準安定相・析出相が形成される機構解明、微細組織および諸特性との関係に関する実験的研究、準安定相・析出相形成予測に関する計算材料学的研究を行い、準安定相・析出相制御を通してのチタンの高機能化と低コスト化の可能性を検討する。	3回(平成28年9月20日、12月26日、平成29年3月22日)の研究部会を開催。 ①Ti-V系およびTi-Nb系合金の強度・延性、疲労強度、硬さ、弾性率、加工性、耐酸化性などの特性に及ぼす酸素添加の影響を調査し、酸素の影響の定量的把握が可能となった。 ②相変態や時効析出などの合金組織形成に及ぼす酸素の影響について調査し、β型合金においては酸素添加に伴い疲労特性が向上することに加えて、その機構を組織変化の観点から解明した。 ③原子配置を考慮した第一原理計算によるTi-X(V, Nb含む)二元系合金の相安定性および弾性率が導出できることが示された。 ④ω相形成に及ぼす酸素の影響に関して合金元素が大きな役割を果たしていることが実験および計算により示唆された。 ⑤準安定相のスピノーダル分解に及ぼす酸素の影響を明らかにした。 ⑥Tiロードマップに関しては、テクノロジーロードマップはチタン協会産学連携委員会作成版を使用することとし、サイエンスロードマップは新家委員作成版をベースに若手で検討することとなった(原案作成済)。
11	多機能性材料研究部会 【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末	アルミニウムの特徴を活かした多機能材料としての可能性を拡大する。ポーラス化・複合化による課題解決方法、目標とする気孔形態、第二相形態をもつポーラス材料、複合材料の製造プロセスを検討する。	3回(平成28年7月7日、11月4日、平成29年3月30日)の研究部会を開催。 2年目も機能性材料に関するニーズと課題を調査し、多機能性材料として進むべき方向性およびその対応方法について議論し、ポーラス材料の気孔形態制御、複合材料の第二相形態制御などのアプローチでの検討を行った。平成29年1月17日に本研究部会で扱う、ポーラス構造・ラティス構造、軽量性・放熱性・衝撃吸収性などの多機能性、粉末積層造形(3Dプリンティング)技術などを取り上げ、第101回シンポジウム「多機能性アルミニウム材料の開発と応用」～素材に息吹を与える多機能化～を開催し、部会成果を公開した。また、会誌「軽金属」特集号(平成29年、第67巻11号)「軽金属の複合化・ポーラス化技術と多機能化」の分担を決めた ①外部講師に構造・トポロジー最適化計算の概要および事例を紹介していただき、これに基づき最適化計算を開始した。 ②3Dプリンタで造形されたアルミニウム合金の微視組織観察を行った。 ③3Dプリンタ技術やシンクロトロン光を用いた分析技術に関する情報交換を実施した。複合化による高機能化について情報交換を行った。 ④3年目は衝撃吸収部材、電極材料、熱交換用材料としての調査を実施し、トポロジー最適化計算、積層造形アルミニウム材の熱処理による組織制御と特性制御を実施することとした。
12	超音波鋳造研究部会 【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末	凝固組織微細化効果のある超音波鋳造に関する創造的な研究の発展と早期実用化を図る。世界の研究動向と技術展開に関する知見を得て、装置構成、超音波ホーン要求仕様、超音波処理条件の最適化に向けた現象解明、各種合金に対する超音波効果、凝固組織変化に対する超音波効果の機構を検討する。	3回(平成28年5月20日、11月14日、平成29年1月25日)の研究部会を開催。平成29年第133回秋期大会でのテーマセッションを計画した。 ①展伸用合金と鋳造用合金の超音波鋳造における超音波の照射時期の影響、微細化剤との関連、合金による超音波の効果の違いなどに関する議論を行い、装置の実用において最低限必要な装置構成・仕様を明らかにした。 ②超音波鋳造試験に使う合金種、詳細な条件などについて、アンケート調査を行ったが、部会の委員人数が少ないためデータは整理しにくい。また、企業で行っている調査情報は入手が難しい。
13	異種金属接合部の腐食挙動予測研究部会 【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末	車両・建材等の構造部材の鋼/アルミニウム、垂鉛/アルミニウムのような異種金属接合部の腐食挙動を予測する。	4回(平成28年5月20日、9月9日、12月5日、平成29年3月31日)の研究部会を開催。 ①1050およびA5052の大気腐食挙動の調査とAl/Steel対の腐食評価とシミュレーションを行った。試験内容を以下に示す。 腐食環境：NaCl中、大気環境(RH, 塩付着量) 腐食期間(長期, 短期)：～2ヶ月 腐食試験：ラボ試験(温湿制御, CCT, SST), 大気暴露 腐食機構・寿命予測：大気腐食機構、ガルバニック腐食、腐食損傷量 ②腐食データについて議論し、結果のまとめを行うこととなった。

			③結果を踏まえ、次期腐食シミュレーションを実施することとなった。
14	汎用型高性能マグネシウム合金研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	資源偏在性の少ない元素により構成される汎用マグネシウム合金を対象として、高強度・高延性、生産性、信頼性(腐食・接合性・難燃性等)を加味した合金設計指針の検討を行う。発火特性・室温成形性を改善するプロセス技術検討、計算科学を利用した合金設計法、プロセス予測法を検討する。	3回(平成28年6月9日、9月16日、12月19日)の研究部会を開催。 ①展伸材の研究 各種マグネシウム合金圧延材の室温～温間域における曲げ成形性、曲げ変形前後の組織を評価した。比較材としてAl合金(5052-H32)の室温曲げ成形限界を評価した。各種Mg合金の面内異方性はAl合金よりも大きく、その成形性は、Al合金よりも高い温度依存性を示した。 ②鑄造材の研究 展伸材のリサイクル性を評価するためにAZ31B合金を溶解保持し、72時間まで経時のサンプリングを行い、試料を作製した。72時間の溶解・保持に伴いFe及び酸素濃度は2倍程度増加した。しかし、その絶対値は許容範囲内の値であった。塩水浸漬試験の結果では72時間の溶解・保持に伴い、腐食速度は約1.5倍増加したが、マクロ組織には大きな差違は観察されなかった。 ③ロードマップ作成 鑄造：合金開発・プロセス、圧延：材料開発・成形加工・電池負極利用・プロセス技術、押出：高速押出・高強度材、接合：溶接・機械締結・接着、耐食技術、精錬・リサイクル技術について、ロードマップを作成した。
15	冷間／熱間加工工程における組織形成予測部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	前部会で活用した同志社大学仲町先生のコードを更に発展させ、我が国独自のアルミ製造技術に貢献できる材料組織形成シミュレーションの構築を目指す。なお、製造現場に即した課題抽出も行き、製造プロセスへの適用も検討する。	3回(平成28年6月23日、9月27日、12月13日)の研究部会を開催。 ①1050-1%Mn合金、4N-1%Mn合金について、熱間平面ひずみ圧縮試験を行い、熱処理後の組織変化(加工組織、再結晶、結晶粒成長挙動)について調査した。また両材熱間加工材についてXRDによる第二相測定を行い、前者においては化合物のピークが確認され、後者については特定ピークが確認されなかったため、あいちシンクロトン光センターでの金属間化合物の同定を検討した。 ②結晶塑性均質化法有限要素解析コードを整備し、多パス圧延解析に向けた仕様変更を検討した。 ③種々のアルミニウム合金に対して、熱間単軸圧縮試験結果からFEM解析を使った補正によって摩擦の影響を排除し、温度、ひずみ速度依存性を考慮した応力構成式を得た。 ④1050-1%Mn材のas-castに冷間圧延を施し、500℃で短時間熱処理した場合の組織変化を調査した。
16	アルミニウムのトライボロジー研究部会 【開催期間】平成27年10月-平成31年3月末	アルミニウム圧延でのロールコーティング生成におよぼす影響因子の解明を目的に、摩擦摩耗試験を用いた工具とAIの凝着現象研究や、純Al系材質とAl-Mg合金系材質でのロールコーティングの生成挙動の比較を行う。	2回(平成28年7月、平成29年3月)の研究部会を開催。 ①圧延での凝着開始点の観察手法を議論し、前研究部会の残テストピースを用い、緊急停止によりロールバイト内の凝着開始状況を分析する事とした。 ②圧延テストを平成29年3月に実施した。テスト内容は以下の通り。 ・圧延材：A1050 ・圧延材温度：450℃ ・圧下率：50% ・圧延材寸法：5t×40w×500l ・圧延枚数：1枚、圧延途中で停止 ・摩擦係数：Bland&Fordの式より算出 ・表面解析：SEM(表面・断面)、EPMA、GD-OES

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考を行い、理事会での承認を得て、(1)および(7)1を平成28年5月開催の第130回春期大会にて、(2)～(5)および(7)2を平成28年11月開催の第131回秋期大会にて表彰を行った。(6)については、平成29年2月末に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。今期、支部表彰から本部表彰とした(9)軽金属学会企業奨励賞は各支部で表彰を行った。

(1)平成28年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞表彰

前年度の軽金属学会賞・功労賞・功績賞選考委員会で選考され、理事会で承認された下記7名を表彰した。

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------|
| 1)第19回軽金属学会賞 | 東京工業大学 名誉教授 | 里 達雄 君 |
| 2)第18回軽金属学会功労賞 | (株)UACJ 技術部主査
(現日本アルミニウム協会) | 大瀧 光弘 君 |
| | 北陸アルミニウム(株) | |
| | ハウスウェア事業本部キャスト工場長 | 中嶋 博 君 |
| | 日本大学 教授 | 藤原 雅美 君 |

- 3)第 14 回軽金属功績賞 東北大学 教授 コマロフ・セルゲイ 君
 富山大学 准教授 才川 清二 君
 名古屋工業大学 教授 渡辺 義見 君

(2)平成 28 年度軽金属論文賞・論文新人賞

佐藤英一推薦委員長のもとで論文賞対象論文 47 編の内 9 編、新人賞対象論文 10 編の内 5 編の論文を推薦し、土田孝之選考委員長のもとで 2 編(8 名)の論文賞、2 名の新人賞を選考した。

1)論文賞

- ①「Al-Mg (-Zn) 系合金のセレーション発生挙動に及ぼす析出状態の影響」 第 65 巻 8 号(2015) 331-338 掲載
 (株)神戸製鋼所 松本 克史 君
 (株)神戸製鋼所 有賀 康博 君
 (株)コベルコ科研 常石 英雅 君
 大阪大学大学院 岩井 光 君
 大阪大学 水野 正隆 君
 大阪大学 荒木 秀樹 君
- ②「Al-Si-Mg 系合金ろう材を用いたフラックスレスろう付の接合機構」 第 65 巻 9 号(2015) 396-402 掲載
 三菱アルミニウム(株) 三宅 秀幸 君
 三菱アルミニウム(株) 江戸 正和 君

2)論文新人賞

- ①「5000 系アルミニウム合金板の異方硬化の定式による板材成形シミュレーションの高精度化」 第 65 巻 11 号(2015) 554-560 掲載
 東京農工大学大学院(現：近畿車輛(株)) 川口 順平 君
- ②「Al-Mg-Si 系合金の再結晶挙動に及ぼす固溶析出状態の影響」 第 66 巻 6 号(2016) 298-305 掲載
 (株)UACJ 長谷川啓史 君

(3)第 51 回小山田記念賞

本保元次郎選考委員長のもと、応募技術 2 件について検討の結果、当該技術 1 件を選考した。

「“World 1” の二輪車軽量化技術開発」

- ヤマハ発動機(株) 橋内 透 君、久保田 剛 君
 鈴木 貴晴 君
 (株)UACJ 浅野 峰生 君
 新日鐵住金(株) 高橋 一浩 君

(4)第 39 回高橋記念賞

高橋英徳選考委員長のもと、各支部からの推薦 3 件について選考委員による書面審査の結果、3 名を選考した。

- (株)アーレスティ熊本 宮嶋 久義 君
 (株)神戸製鋼所 牧野 圭祐 君
 (株)UACJ 前川 和弘 君

(5)軽金属奨励賞・躍進賞・女性未来賞

廣澤涉一選考委員長のもと、3 つの賞について審議し、躍進賞は応募 6 名の候補者のうち 3 名を、奨励賞は 7 名の候補者のうち 3 名を、女性未来賞は 3 名の候補者のうち 1 名を選考した。

- 1)第 15 回軽金属躍進賞 豊橋技術科学大学 小林 正和 君
 大阪大学 萩原 幸司 君
 (株)UACJ 八太 秀周 君
- 2)第 34 回軽金属奨励賞 東北大学 上田 恭介 君
 (株)神戸製鋼所 中村 貴彦 君
 物質・材料研究機構 松永 哲也 君
 (株)カサタニ 小原 美良 君
- 3)第 8 回軽金属女性未来賞

(6)平成 28 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 28 名について、総務委員会による二次選考の結果、28 名全員を選考した。

所 属	氏 名	所 属	氏 名
東北大学大学院	前田 幸大 君	早稲田大学大学院	吉田 智徳 君
山形大学大学院	伊藤 広祥 君	日本大学大学院	相馬健一郎 君
千葉大学大学院	井上 祥一 君	千葉工業大学大学院	澤谷 拓馬 君
首都大学東京大学院	金澤 孝昭 君	富山大学大学院	捫垣 俊哉 君
茨城大学大学院	高森 悠紀 君	豊橋技術科学大学大学院	傍島 亮平 君
茨城大学大学院	望月 健吾 君	名古屋工業大学大学院	前川 和範 君
茨城大学大学院	太田 佳宏 君	大阪工業大学大学院	岡村健太郎 君
茨城大学大学院	小松 健人 君	大阪工業大学大学院	宮崎 圭司 君
群馬大学大学院	森田 知朗 君	大阪府立大学大学院	南 大地 君
宇都宮大学大学院	福重 広輝 君	大阪府立大学大学院	久間千早希 君
芝浦工業大学大学院	岩瀬 陽祐 君	兵庫県立大学大学院	佐伯 優斗 君
芝浦工業大学大学院	白鳥 亮太 君	関西大学大学院	宮崎 昌人 君

東京工業大学大学院	山岸 大起 君	香川高等専門学校専攻科	齊藤 楽 君
東京工業大学大学院	浅倉 太一 君	九州大学大学院	渡部 恭平 君

(7)優秀ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、今年度は以下の通り春期大会で11名、秋期大会で12名を表彰した。

1)第130回春期大会

題 目	所 属	氏 名
Ca-Mg-Zn系溶解性化合物複相合金の創成	大阪大学(院)	石井健太郎 君
Ti-6Al-4V合金の表面特性と疲労強度に及ぼすピーニング効果	兵庫県立大学(院)	佐伯 優斗 君
Ti不動態皮膜中に含まれる結合水の深さ方向分析	関西大学(学)	今村 昌仁 君
Ti-Fe合金焼結材の時効硬化挙動に及ぼすZr添加の効果	長岡技科大学(院)	釜田 岳 君
硫酸水溶液中で形成したポーラス型Al陽極酸化皮膜の水素量と変質処理電位の相関性	関西大学(院)	宮崎 昌人 君
Mg/LPSO二相双結晶を用いた微小圧縮試験により形成されるキンク帯	熊本大学(院)	渡辺 大海 君
アルミニウム合金における引張変形中の転位増殖挙動に及ぼす添加元素の影響	兵庫県立大学(院)	岡田 将秀 君
スクレイパーを装着した縦型ダブルロールキャストによるマグネシウム合金クラッド材の作製	大阪工業大学(院)	岡村健太郎 君
横型半連続鋳造機を用いたMg合金の厚板の作製	大阪工業大学(院)	宮崎 圭司 君
難燃耐熱マグネシウム合金のプラズマ電解酸化時の皮膜生成過程	工学院大学	橋本 英樹 君
発泡Al-Cu-Mg合金における気孔形態とセル壁組織が圧縮特性に及ぼす影響	早稲田大学(学)	小坂 太郎 君

2)第131回秋期大会

題 目	所 属	氏 名
β 型Ti-Mn系合金の力学特性および変形機構に及ぼすMo添加の影響	大阪大学(院)	古畑 弘樹 君
Al-Zn-Mg系合金の引張特性および水素放出挙動に及ぼす内在水素の影響	大阪大学(院)	針木 優太 君
AX81マグネシウム合金の圧延加工による広幅材の開発	権田金属工業(株)	早川 佳伸 君
電子ビーム積層造形法による特異層状組織導入とこれを用いた高延性Ti-48Al-2Cr-2Nb合金の開発	大阪大学(院)	LiuTianqi 君
Al添加量の最適化によるMg-Al-Ca-Mn高速押出合金の高強度化	長岡技科大学(院)	安嶋 龍太 君
Mg-Al-Ca-Mn高濃度合金圧延材の機械的性質とマイクロ組織に及ぼす圧延条件の影響	長岡技科大学(院)	松本 拓也 君
Al-Si-Mg合金の熱疲労挙動に及ぼすCu添加の影響	芝浦工業大学(院)	平井 佑弥 君
冷間圧延中のチタン板とロールの接触抵抗の四端子法による測定	大阪大学(院)	亀山 修吾 君
生体内分解性マグネシウム合金の疲労特性に及ぼすZn添加の影響	神戸大学(院)	植村 太一 君
ELID研削による機能性を付与するチタン加工技術の構築	茨城大学(院)	山田 和晃 君
マグネシウム合金における引抜き加工限界予測	大阪府立大学(院)	味原 颯大 君
交流電場を用いた間接通電法によるアルミニウム上への酸化膜形成	工学院大学(学)	石野 真美 君

(8)平成29年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

金子 明選考委員長のもと、3つの賞について審議の結果、学会賞は3名の候補者のうち1名を、功労賞は1名の候補者を、功績賞は1名の候補者をそれぞれ下記のとおり選考した。表彰は平成29年5月開催の第132回春期大会にて行われる。

1)第20回軽金属学会賞	名古屋大学名誉教授	金武 直幸 君
2)第19回軽金属学会功労賞	(株)神戸製鋼所アルミ・銅事業部門技術担当次長	櫻井 健夫 君
3)第15回軽金属功績賞	広島工業大学工学部教授	日野 実 君

(9)平成28年軽金属学会企業奨励賞

本賞は平成26年度より支部表彰していたものを本年度より本部表彰とするもので、各支部における軽金属に関する研究、技術開発、商品開発等において優れた業績を残した維持会員に贈る賞で、下記の通り、支部推薦の3社を表彰した。

堀金属表面処理工業(株)
福岡アルミ工業(株)
和伸工業(株)

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条1項第6号)

1. 人材育成

本部において、昨年同様、大学オープンキャンパスへの軽金属製品の供与・貸与事業を実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。16校に製品提供を行い、各校の開催報告記事「はぐくむ」を会誌、HPに掲載した。この他、大学研究室で夏休みに実施している科学実験教室との連携を考え、材料提供・人的協力に関するアンケートを実施した。この他、日本産業技術教育学会が主催する第19回技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト(上越教育大学)で軽金属材料を利用した小学生、高校生の2作品を表彰した。本事業は平成19年から実施し、これまで8作品(個人・団体)を表彰している。

また、各支部においても、学生会員を対象とした講演会、ポスター発表、見学会など、若手人材育成に関わる事業を実施した。関東支部においては小中校生・教諭が参加しやすい夏休みに工場見学会を開催し、高校教諭2名が参加した。

2. 若手の会、女性会員の会

(1) 若手の会

第30回会合：第130回春期大会第2日目(5月29日)に実施。参加者37名。話題提供と質疑応答。

第10回若手育成のための合同会合：第130回春期大会前日に実施。参加者16名。

第31回会合：第131回秋期大会第2日目(11月6日)に実施。参加者23名。話題提供と質疑応答。

第11回若手育成のための合同会合：第131回秋期大会前日に実施。参加者11名。

(2) 女性会員の会

第20回会合：第130回春期大会第1日目(5月28日)に実施。参加者19名(女性15名、男性応援4名)。

第11回託児室設置：第130回春期大会中に実施。利用者1名。

第21回会合：第131回秋期大会第1日目(11月5日)に実施。参加者24名(女性21名、男性応援3名)

第12回託児室設置：第131回秋期大会中に実施。利用者なし。

3. 中堅企業R&D支援

二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」の一環として、無料講演会、イブニングセミナー、相談会、研修会、出前講座などの行事を各支部で実施した。東海、関西、九州支部では優れた技術開発を実施した維持会員企業を表彰する軽金属学会企業奨励賞授与を行った。本部では軽金属セミナーを録画したDVDの無料貸出を実施し、会員サービス向上による会員基盤増強を図った。また、春秋講演大会においては、ユーザー企業参加促進策として企業交流会を実施し、日本アルミニウム協会賞受賞企業の講演発表、開発製品展示を行い、技術交流、人材交流の場を提供した。大阪大学で開催された春期大会では関西地区企業3社が企業交流会に参加し交流が行われた。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会、支部評議員会(1回) 2.講演会等 ①アルミ製品製造の高度化技術講演会(苫小牧) ②支部講演大会 ③招待講演 1-2件を予定 3.人材育成 ①若手研究者発表会 4.表彰関係 ①企業奨励賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①中小企業 R&D 支援プログラム活動 ②無料講習会を実施 ③道総研工業試験場年次報告会「技術移転フォーラム ー工業試験場成果発表会」にて学会パンフレット配付	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①2回開催(平成28年9月8日、10月14日) 2.講演会等 ①平成28年10月7日実施(下記参照) ②北海道立総合研究機構プラザ(札幌市) 平成28年4月22日実施(下記参照) ③支部講演会 平成29年3月13日実施 3.人材育成 上記③支部講演会に兼ねる 4.表彰関係 ①次年度に実施延期 5.維持会員加入勧誘活動 ①3社を勧誘したが加入に至らず ②実施なし ③平成28年6月1日配付
特記事項) 2-①アルミ製品製造の高度化技術講演会 北海道アルミニウム利用技術研究会主催、苫小牧市テクノセンター、日本鑄造工学会北海道支部、および軽金属学会北海道支部の後援で実施。 「ダイカストの品質向上への取り組みと課題」 ものつくり大学教授 西 直美 2-②支部講演大会 日本鑄造工学会北海道支部と合同開催。 2-③支部講演大会 「軽金属の腐食反応を用いた複酸化物の合成」 室蘭工業大学教授 世利修美	

(2) 東北支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部役員会(2回) 2.講演会等 ①主催講演会(2回)	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①第1回 平成28年11月28日 第2回 平成29年3月10日 2. 講演会等 ①2回開催 平成28年7月22日 平成29年3月10日

<p>②共催・後援行事(3回)</p> <p>3.人材育成 ①共催講演会における若手交流</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞1次選考、推薦 ③学会賞、功労賞の選考、推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①公設試の活用</p>	<p>②5回開催 平成28年7月22日後援 平成28年9月26日共催 平成28年9月27日後援 平成28年11月25日後援 平成29年1月18日後援</p> <p>3.人材育成 ①平成28年9月26日 「バイオマテリアル研究 若手交流会」</p> <p>4.表彰関係 ①支部推薦なし ②2名推薦、2名受賞 ③学会賞1名推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①イブニングセミナー 平成29年3月10日</p>
<p>特記事項)</p> <p>2-①第1回軽金属学会東北支部講演会 日本大学工学部(郡山) 「ロケット・衛星を造る材料とは」 JAXA 宇宙科学研究所 佐藤英一教授 第2回軽金属学会東北支部講演会およびイブニングセミナー 東北大学工学部(仙台) 「超音波によるものづくり ~凝固・接合・加工・検査~」 東北大学 コマロフセルゲイ教授 日本大学 前田将克准教授、 日本工業大学 神 雅彦教授 東北大学 三原 毅教授</p> <p>2-②後援:第28回溶接・接合研究会 八戸グランドホテル 共催:東北大学金属材料研究所共同研究ワークショップ・日本バイオマテリアル学会東北地域講演会 「バイオマテリアル研究 若手交流会」 東北大学金属材料研究所 講師 大阪大学 中野貴由教授、東京医科歯科大 塙隆夫教授 他若手教員12名 後援:日本塑性加工学会東北・北海道支部講演会 「有機材料の開発と応用の最前線ならびに研究施設見学会」 山形大学米沢キャンパス 後援:エコテクノロジー若手研究フォーラム講演会 東北大学片平キャンパス 後援:日本鉄鋼協会東北地区講演会・若手フォーラム 東北大学青葉山キャンパス 「環境調和型鉄鋼プロセス」</p> <p>3-①上記2-②共催行事において、若手支援助成金を申請。若手教員による講演、パネルディスカッション、東北地区の学生を招待し、講演を聴講させた。</p>	

(3)関東支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部総会(1回)</p> <p>②支部運営委員会(4回)</p> <p>2.講演会等 ①第131回秋期大会(茨城大)の実行援助 ②工場見学会</p> <p>3.人材育成 ①若手研究者ポスター発表会</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部企業奨励賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①セミナー</p> <p>②訪問活動</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①平成28年8月29日 東工大蔵前会館くらまえホール、72名出席 ②第1回 平成28年6月15日 (株)UACJ本社、12名出席 第2回 平成28年10月24日 (株)神戸製鋼所、11名出席 第3回 平成28年12月5日 (株)UACJ本社、9名出席 第4回 平成29年3月13日 (株)神戸製鋼所、14名出席</p> <p>2.講演会等 ①実行委員会に参画 ②平成28年8月8日 場所: いすゞ自動車(株)藤沢工場 日本フルハーブ(株)厚木工場 参加者:37名</p> <p>3.人材育成 ①平成28年8月29日 東工大蔵前会館くらまえホール、30名発表</p> <p>4.表彰関係 ①推薦なし ②1名を推薦し、1名が受賞決定 ③15名を推薦し、15名が受賞決定 ④推薦なし</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①技術講演会 平成28年7月7日 栃木県産業技術センター、86名出席(講師、主催・共催関係者含む) ②第1回ビジネスマッチ鹿沼に出展した中小企業に対する学会</p>

	の紹介・勧誘、10社程度	
特記事項)		
2-②高等学校教諭 2名参加		
3-①平成28年度(第5回)若手研究者ポスター発表会		
参加者:72名、関東支部運営委員23名(企業5名、学側18名)		
若手研究者ポスター発表件数:30件(企業1名、学生29名)		
特別講演2件:		
「超々ジュラルミンの開発から学ぶこと」	(株)UACJ	吉田英雄
「アルミニウム合金の高性能化と新たな研究に向けて」	東京工業大学名誉教授	里達雄
5-①技術講演会		
「自動車における軽量化とアルミニウム合金の適用」	日産自動車(株)	神戸洋史
「アルミニウム合金と輸送機器部品への適用技術」	(株)神戸製鋼所	櫻井健夫

(4)北陸支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会(2回)4月、9月	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①第1回 平成28年4月14日 第2回 平成28年9月28日	
2.講演会等 ①春期講演会・中堅企業支援セミナー ②秋期講演会・中堅企業支援セミナー	2.講演会等 ①平成28年6月20日 富山大学工学部 67名参加 ②平成28年11月17日 高岡JA会館 68名参加	
3.人材育成 ①幹事研修会	3.人材育成 ①平成28年11月1-2日 (株)能作、北陸アルミニウム(株) 17名参加	
4.表彰関係 各賞推薦	4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦、1名受賞 ②軽金属希望の星賞推薦、1名受賞	
5.維持会員加入勧誘活動 随時	5.維持会員加入勧誘活動	
特記事項)		
2-①春期講演会・中堅企業支援セミナー		
「アルミ材料を用いた自動車の軽量化の動向」	(株)マルサン木型製作所	林 壮一
「アルミニウム合金と異種金属材料の溶接・接合」	富山県工業技術センター	富田正吾
「自動車部品軽量化におけるアルミニウム材料開発の取組み」	アイシン軽金属(株)	吉田朋夫
2-②秋期講演会・中堅企業支援セミナー		
「亜共晶アルミニウム合金の凝固挙動について」	東京工業大学名誉教授	神尾彰彦
「非鉄合金の铸造性・特に铸造割れについて」	(一社)日本アルミニウム協会	大瀧光弘
「黒谷樹について」	黒谷(株)	森 久修
協賛事業		
①日本鉄鋼協会北陸信越支部湯川記念講演会 平成28年7月11日	富山第一ホテル	
②日本金属学会北陸信越支部本多光太郎記念講演会 平成28年12月3日	金沢大学	
③富山大学材料科学国際会議(ICPMAT) 平成28年7月15-17日	中国・昌吉大学	
④富山大学材料研究会 第49回研究発表会 平成28年10月3日	富山大学工学部	
第50回研究発表会 平成29年2月10日	ホテルグランテラス富山	
⑤富山大学先端材料研究国際連携フォーラム 平成28年10月13-14日	富山第一ホテル	

(5)東海支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会(1回) ②評議会(1回) ③理事会(3回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①平成28年4月25日 名古屋工業大学 ②同上 ③第1回 平成28年6月17日 名古屋大学 第2回 平成28年10月5日 (株)UACJ 第3回 平成29年3月13日 名古屋大学	
④若手の会(軽進会)	④第18回:平成28年4月22日 名古屋工業大学 第19回委員会:平成28年12月12日 日本軽金属(株)蒲原製造所	
⑤女性会員の会	⑤平成28年12月1日 (株)TYK 見学 平成28年12月14日 名古屋工業大学	
⑥大会実行委員会(3回)	⑥第1回:平成28年4月25日 名古屋工業大学	

<p>2.講演会等 ①講演会(1回) ②-1 研究部会(航空機材料部会) ②-2 研究部会(プレス加工部会)</p> <p>3.人材育成 ①若手ポスター発表会(1回)</p> <p>②基礎講習会</p> <p>4.表彰関係 ①企業奨励賞 ②高橋記念賞 ③軽金属希望の星賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①イブニングセミナー</p> <p>②工場見学会</p> <p>③TECH Biz 2016 支部活動展示、講演会</p>	<p>第2回:平成28年9月27日 名古屋大学</p> <p>2.講演会等 ①平成28年4月25日 名古屋工業大学 ②-1 開催無し ②-2 平成28年11月22日 岐阜大学サテライトキャンパス</p> <p>3.人材育成 ①平成28年11月25日 名古屋大学 (金属学会東海支部と共催) ②基礎講習会:平成29年1月31日 名古屋工業大学</p> <p>4.表彰関係 ①堀金属表面処理工業(株)推薦し、受賞 ②1件推薦し、受賞 ③2名推薦、2名受賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①平成28年9月26日 名古屋市工業研究所 講演3件、相談会 46名参加(維持会員11社、非会員14社) ②平成29年3月3日 8名参加 三菱アルミニウム(株)富士製作所 トヨタ自動車東日本(株)東富士工場 ③平成28年11月16-18日 吹上ホール 展示会 講演会、150名参加</p>
---	--

特記事項)		
2-①第1回講演会 テーマ「3Dプリンティング技術と軽金属への応用」		
①「次世代型産業用3Dプリンタ開発の現状と軽金属への応用」	近畿大学	京極秀樹
②「レーザービーム積層造形による軽金属の3Dプリンティング」	産業技術総合研究所	清水 透
③「電子ビーム積層造形による軽金属の3Dプリンティング」	東北大学	千葉晶彦
2-②-2 研究部会(プレス加工部会)		
①「サーボプレス技術の最新情報および応用事例」	コマツ産機(株)	河本基一郎
②「温間成形技術の現状と今後の展開」	大同大学	高田 健
③「アルミニウム合金板の部分軟化成形法」	大同大学	西脇武志
④「インクリメンタル成形および対向液圧成形」	(株)アミノ	和田教之
3-①若手ポスター発表会特別講演会 「生物に学ぶものづくり」	静岡理科大学	志村史夫
3-②基礎講習会		
①「各種アルミニウム合金とその特徴」	(株)UACJ	中西英貴
②「アルミニウム合金の表面処理」	三菱アルミニウム(株)	坂本泰久
③「アルミニウム合金および異種材の接合」	(株)神戸製鋼所	今村美速
④「アルミニウム合金の塑性加工」	岐阜大学	吉田佳典
⑤大型設備基盤センターの紹介および見学		
5-①イブニングセミナー テーマ「アルミニウム合金の表面処理入門と機能性アルマイト」		
①「アルミニウム合金の表面処理方法」	三菱アルミニウム(株)	坂本泰久
②「アルミニウムの材質とアルマイト外観」	元古河スカイ(株)	松尾 守
③「機能性アルマイトとその応用」	前嶋技術士事務所	前嶋正受
5-③ TECH Biz 2016 講演会		
①「日本の塑性加工技術の現状と将来展望」	中部大学	石川孝司
②「軽量アルミニウム製バンパーの加工技術」	(株)UACJ	田中晃二
③「アルミニウム合金板材の成形技術」	(株)神戸製鋼所	小西晴之
④「数値シミュレーションを利用した押出しダイス設計技術」	日本軽金属(株)	林 沛征
⑤「次世代のアルミ部品を支えるアルマイト技術」	(株)ミヤキ	遠藤優希

(6)関西支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会(2回) ②支部幹事会(2回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①平成28年4月12日、平成29年1月6日 ②同上
2.講演会等 ①関西支部シンポジウム	2.講演会等 ①平成28年9月2日 関西大学千里山キャンパス、52名参加
3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール ②若手研究者院生による研究発表会	3.人材育成 ①平成28年9月2日 関西大学千里山キャンパス、52名参加 ②平成28年12月21日(水)

<p>③大学院生フィールドワーク助成プログラム</p> <p>④出前講座 (軽金属需要喚起啓発ボランティアプログラム)</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①軽金属学会功労賞推薦 ②軽金属躍進賞推薦 ③軽金属希望の星賞 ④企業奨励賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 訪問活動継続</p>	<p>口頭発表 7 名、ポスター発表 63 名 大阪府立大学、125 名参加</p> <p>③神戸製鋼所、昭和電工、東洋アルミニウム 大阪工業大学、関西大学参加</p> <p>④平成 29 年 2 月 2 日 八尾商工会議所、講演、八尾市お知らせ 交流会、名刺交換会、24 名参加</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①推薦なし ②1 名推薦、受賞 ③6 名推薦、受賞 ④和伸工業㈱推薦、受賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 継続的に勧誘している。</p>																																																
<p>特記事項)</p> <p>2-①軽金属学会関西支部シンポジウム</p> <table border="0"> <tr> <td>「レーザ合金化によるチタンの耐摩耗性向上」</td> <td>大阪府立産業技術総合研究所</td> <td>山口拓人</td> </tr> <tr> <td>「組織制御によるマグネシウム展伸材の機械的特性向上」</td> <td>大阪市立工業研究所</td> <td>渡辺博行</td> </tr> <tr> <td>「マグネシウム合金プレス成形加工製品の開発」</td> <td>(株)カサタニ</td> <td>小原美良</td> </tr> </table> <p>3-①関西軽金属サマースクール</p> <table border="0"> <tr> <td>「生体内分解性マグネシウム合金の材料設計」</td> <td>神戸大学</td> <td>池尾直子</td> </tr> <tr> <td>「マグネシウムの双晶と転位の相互作用に関する原子論的解析」</td> <td>同志社大学</td> <td>湯浅元仁</td> </tr> </table> <p>3-②若手研究者院生による研究発表会</p> <table border="0"> <tr> <td>「生体内分解性インプラントに向けたMg-Zn合金の組織制御」</td> <td>神戸大学</td> <td>藤原健吾</td> </tr> <tr> <td>「第一原理計算によるTi-Nb-X形状記憶合金の合金成分設計」</td> <td>大阪府立大学</td> <td>南 大地</td> </tr> <tr> <td>「組成傾斜領域をもつAl合金中のナノ組織分布の可視化と特性」</td> <td>京都大学</td> <td>林 杉</td> </tr> <tr> <td>「異径双ロールキャスターによる凝固温度範囲が広いAl合金のクラッド材の作製」</td> <td>大阪工業大学</td> <td>大西隆介</td> </tr> <tr> <td>「大気環境下におけるアルミニウムの腐食挙動解析」</td> <td>関西大学</td> <td>廣畑洋平</td> </tr> <tr> <td>「アルミニウムの共晶反応を利用した機能性ペースト開発」</td> <td>東洋アルミニウム(株)</td> <td>中原正博</td> </tr> <tr> <td>「TiO₂/SiO₂複合材料の耐剥離性向上を目指したTiO₂被膜の制御」</td> <td>兵庫県立大学</td> <td>原田大志</td> </tr> <tr> <td>特別講演 「第一原理計算といえども組織制御は必要」</td> <td>大阪府立大学</td> <td>東 健司</td> </tr> </table> <p>3-④出前講座(軽金属需要喚起啓発ボランティアプログラム)</p> <table border="0"> <tr> <td>「マグネシウム合金の性質と応用事例」</td> <td>神戸大学</td> <td>向井敏司</td> </tr> <tr> <td>「チタン材料技術と強度特性」</td> <td>日鉄住金テクノロジー(株)</td> <td>福井 清</td> </tr> <tr> <td>「チタン材料の応用事例」</td> <td>奈良精工(株)</td> <td>中川博央</td> </tr> </table>		「レーザ合金化によるチタンの耐摩耗性向上」	大阪府立産業技術総合研究所	山口拓人	「組織制御によるマグネシウム展伸材の機械的特性向上」	大阪市立工業研究所	渡辺博行	「マグネシウム合金プレス成形加工製品の開発」	(株)カサタニ	小原美良	「生体内分解性マグネシウム合金の材料設計」	神戸大学	池尾直子	「マグネシウムの双晶と転位の相互作用に関する原子論的解析」	同志社大学	湯浅元仁	「生体内分解性インプラントに向けたMg-Zn合金の組織制御」	神戸大学	藤原健吾	「第一原理計算によるTi-Nb-X形状記憶合金の合金成分設計」	大阪府立大学	南 大地	「組成傾斜領域をもつAl合金中のナノ組織分布の可視化と特性」	京都大学	林 杉	「異径双ロールキャスターによる凝固温度範囲が広いAl合金のクラッド材の作製」	大阪工業大学	大西隆介	「大気環境下におけるアルミニウムの腐食挙動解析」	関西大学	廣畑洋平	「アルミニウムの共晶反応を利用した機能性ペースト開発」	東洋アルミニウム(株)	中原正博	「TiO ₂ /SiO ₂ 複合材料の耐剥離性向上を目指したTiO ₂ 被膜の制御」	兵庫県立大学	原田大志	特別講演 「第一原理計算といえども組織制御は必要」	大阪府立大学	東 健司	「マグネシウム合金の性質と応用事例」	神戸大学	向井敏司	「チタン材料技術と強度特性」	日鉄住金テクノロジー(株)	福井 清	「チタン材料の応用事例」	奈良精工(株)	中川博央
「レーザ合金化によるチタンの耐摩耗性向上」	大阪府立産業技術総合研究所	山口拓人																																															
「組織制御によるマグネシウム展伸材の機械的特性向上」	大阪市立工業研究所	渡辺博行																																															
「マグネシウム合金プレス成形加工製品の開発」	(株)カサタニ	小原美良																																															
「生体内分解性マグネシウム合金の材料設計」	神戸大学	池尾直子																																															
「マグネシウムの双晶と転位の相互作用に関する原子論的解析」	同志社大学	湯浅元仁																																															
「生体内分解性インプラントに向けたMg-Zn合金の組織制御」	神戸大学	藤原健吾																																															
「第一原理計算によるTi-Nb-X形状記憶合金の合金成分設計」	大阪府立大学	南 大地																																															
「組成傾斜領域をもつAl合金中のナノ組織分布の可視化と特性」	京都大学	林 杉																																															
「異径双ロールキャスターによる凝固温度範囲が広いAl合金のクラッド材の作製」	大阪工業大学	大西隆介																																															
「大気環境下におけるアルミニウムの腐食挙動解析」	関西大学	廣畑洋平																																															
「アルミニウムの共晶反応を利用した機能性ペースト開発」	東洋アルミニウム(株)	中原正博																																															
「TiO ₂ /SiO ₂ 複合材料の耐剥離性向上を目指したTiO ₂ 被膜の制御」	兵庫県立大学	原田大志																																															
特別講演 「第一原理計算といえども組織制御は必要」	大阪府立大学	東 健司																																															
「マグネシウム合金の性質と応用事例」	神戸大学	向井敏司																																															
「チタン材料技術と強度特性」	日鉄住金テクノロジー(株)	福井 清																																															
「チタン材料の応用事例」	奈良精工(株)	中川博央																																															

(7)中国四国支部

計画	実施状況						
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会</p> <p>2.講演会等</p> <p>①第 8 回支部講演大会</p> <p>②研究会(2 回)</p> <p>3.人材育成 若手フォーラム</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①支部賞(奨励、優秀講演、研究・開発奨励賞)授与 ②軽金属希望の星賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①岡山県工業技術センター実務研修 ②学会パンフレット配布</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 平成 28 年 7 月 9 日 鳥取大学</p> <p>2.講演会等</p> <p>①平成 28 年 7 月 9 日 鳥取大学 発表件数 26 件、参加者数 47 人 ②第 1 回 平成 28 年 6 月 17 日 広島大学 第 2 回 平成 29 年 2 月 9 日 鳥取大学</p> <p>3.人材育成 平成 28 年 12 月 20 日 岡山大学</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①優秀講演賞 6 件、研究・開発奨励賞 5 件、奨励賞 15 件表彰 ②1 名推薦、受賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①実施せず。 ②支部講演大会、研究会において学会パンフレットを配布した。 中国四国内の関連企業へ配布を行った。</p>						
<p>特記事項)</p> <p>2-②1 回 支部研究会「耐熱鋼・Al および Mg 合金の開発動向」</p> <table border="0"> <tr> <td>「高機能難加工材の製造・先端加工システム開発による革新的ものづくり研究拠点の紹介」</td> <td>広島大学 Hi-NoM リーダー</td> <td>篠崎賢二</td> </tr> <tr> <td>「耐熱鋼の開発における考え方 -ミクロ組織と特性-」</td> <td>名古屋大学</td> <td>村田純教</td> </tr> </table>		「高機能難加工材の製造・先端加工システム開発による革新的ものづくり研究拠点の紹介」	広島大学 Hi-NoM リーダー	篠崎賢二	「耐熱鋼の開発における考え方 -ミクロ組織と特性-」	名古屋大学	村田純教
「高機能難加工材の製造・先端加工システム開発による革新的ものづくり研究拠点の紹介」	広島大学 Hi-NoM リーダー	篠崎賢二					
「耐熱鋼の開発における考え方 -ミクロ組織と特性-」	名古屋大学	村田純教					

「最近のアルミニウム合金鋳物・ダイカストの変遷」	リョービ(株)	駒崎 徹
「最近の欧米におけるマグネシウム製品状況と日本での展望」	森村商事(株)	虫明守行
2-②2回 支部研究会「微細組織制御と材料特性」		
「調和組織材料が示す革新的力学特性の発現メカニズム」	立命館大学	飴山 恵
「ヘテロ凝固核を利用した材料組織制御」	名古屋工業大学	渡辺義見
「放電プラズマ焼結法(SPS)による各種金属系放熱材料の創成」	大阪市立工業研究所	水内 潔
「組織制御による熱電材料の特性改善」	鳥取大学	陳 中春
3 若手フォーラム		
「Structure Control of VGCF/ Aluminum Matrix Composites」	広島大学	Erlangga
「押出し成形したアルミニウム/黒鉛複合材料の組織と熱伝導性」	鳥取大学	吉田典央
「Ti-42Nb 合金の電気抵抗変化に及ぼす溶体化処理温度と測定部位の影響」	岡山大学	丸山拓也
「含浸反応法による金属間化合物粒子強化複合材料の製造及びその特性評価」	広島大学	堀田祐介
「AZ91D 合金射出成形品の強度特性および微細組織に及ぼすシリコン粉末添加の影響」	岡山県立大学	柴田和樹

(8)九州支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2回) ②例会(2回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①② 第1回平成28年7月8日(株)神戸製鋼所長府製造所 第2回平成29年2月10日九州大学筑紫キャンパス	
2.講演会等 ①九州支部合同学術講演会 日本鉄鋼協会・日本金属学会の九州支部と共催	2.講演会等 ①平成28年6月11日九州大学筑紫キャンパス	
3.人材育成 ①若手講演・若手ポスター発表会	3.人材育成 ①平成28年6月11日	
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④若手ポスター賞表彰	4.表彰関係 ①1名推薦、受賞 ②推薦なし ③1名推薦、受賞 ④合同学術講演会の若手優秀発表者4名を表彰、例会にて講演発表	
5.維持会員加入勧誘活動	5.維持会員加入勧誘活動 セミナーの開催(内容、開催地、開催時期)、技術相談室の開設と利用および産業技術総合研究所からの協力体制の構築と役員就任の打診等について、九州支部役員会で検討中	
特記事項)		
1-②例会講演・表彰(平成28年7月8日) 「純アルミニウム・アルミニウム合金の再結晶組織形成とその諸特性」	北海道大学	池田賢一
「自動車熱交換器用アルミニウム合金について」	(株)神戸製鋼所	泉 孝裕
1-②例会講演(平成29年2月10日) 「3D積層技術を用いた新しいものづくり(金属積層法、砂積層法)」	(株)コイワイ	安達 充
「金属粉末レーザ積層造形法により作製されたAlSi10Mg合金の組織と機械的性質」	名古屋大学	高田尚記
「窒化アルミニウム圧電薄膜に関する研究の紹介」	産業技術総合研究所	上原雅人

II. 処務の概況

[1] 役員等に関する事項

1. 役員

職名	氏名	常勤 非常勤	就任年月日 (最初の就任の時)	重任年月日 (現在の任期開始時)	報酬	担当 * 委員長	現職名
代表理事・ 会長	金子 明	非常勤	平成 27 年 5 月 16 日		なし	組織 *	(株)神戸製鋼所代表取締役副社長 アルミ・銅事業部門長
代表理事・ 副会長	本保元次郎	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総合計画 * 組織	千葉工業大学教授
同上	池田 勝彦	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総合計画 大会運営	関西大学教授
理事	興戸 正純	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	大会運営 *	名古屋大学教授
同上	鎌土 重晴	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	研究	長岡技術科学大学教授
同上	河村 能人	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	国際交流	熊本大学先進マグネシウム国際研 究センター長
同上	久保田正広	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	国際交流 *	日本大学教授
同上	コマロフ・セ ルゲイ	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	研究	東北大学教授
同上	佐々木 元	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	参与会 支部長会	広島大学教授
同上	佐藤 英一	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	編集 *	航空宇宙研究開発機構教授
同上	鈴木 進補	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総務	早稲田大学教授
同上	高辻 則夫	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	参与会	富山大学教授
同上	高橋 英徳	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	支部長会 *	北海道立総合研究機構研究主幹
同上	羽賀 俊雄	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	総務	大阪工業大学教授
同上	廣澤 渉一	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	企画	横浜国立大学教授
同上	渡辺 義見	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総務・編集	名古屋工業大学教授
同上	相浦 直	同上	平成 21 年 5 月 22 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	企画 * 国際交流	(株)神戸製鋼所アルミ・銅事業部門 技術担当部長 (現 軽金属溶接協会 専務理事)
同上	阿見 秀一	同上	平成 24 年 5 月 19 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	大会運営	三協立山(株)取締役執行役員
同上	磯部 保明	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	企画	(株)デンソー材料技術部担当部長
同上	神戸 洋史	同上	平成 23 年 5 月 21 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	編集	日産自動車(株)成形技術部鑄造技 術グループ シニアエキスパート
同上	小山 克己	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	編集	(株)UACJ 技術部 主幹
同上	土田 孝之	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	研究 *	日本軽金属(株)監査役
同上	栃木 雅晴	同上	平成 23 年 5 月 21 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	参与会 *	昭和電工(株)コーポレートフェロー 生産技術部
同上	村松 俊樹	同上	平成 23 年 5 月 21 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	総務 *	(株)UACJ 技術開発研究所 上席主幹
同上	山口恵太郎	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	研究 財務	三菱アルミニウム(株) 研究開発部部長
監事	福井 康司	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	監事	東洋アルミニウム(株) 取締役常務執行役員
同上	三輪 謙治	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	同上	元産業技術総合研究所

[2] 職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備考
事務局長	石川和徳	常勤	平成 25 年 1 月 1 日	全般	平成 25 年 6 月 1 日就任
職員	前田その美	常勤	平成 8 年 4 月 1 日	庶務	
職員	木村明子	常勤	平成 8 年 4 月 1 日	編集	
職員	中村秀樹	非常勤	平成 28 年 2 月 1 日	経理	

[3] 会議等に関する事項

1. 総会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
定時総会	28年5月28日	1. 平成27年度事業報告に関する件(報告) 2. 平成27年度決算報告に関する件(審議) 3. 平成28年度事業計画の件(報告) 4. 平成28年度収支予算に関する件(報告)	1. 全員異議なく原案通り確認。 2. 全員異議なく原案通り承認可決。 3. 全員異議なく原案通り確認。 4. 全員異議なく原案通り確認。

2. 理事会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第39回	28年4月27日	<p>【審議事項】</p> 1. 平成28年度定時総会に関する件 ①平成27年度事業報告に関する件 ②平成27年度決算報告に関する件 ③平成28年度収支予算に関する件 2. 理事会オブザーバー参加に関する件 3. 会員異動、常設委員会委員交代に関する件 4. 会員異動に関する件 <p>【報告事項】</p> 1. 他学会との協賛事業の件 2. 常設委員会報告	<p>【審議事項】</p> 1. 一部修正し全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 大会運営、総合計画委員会から報告。
第40回	28年6月24日	<p>【審議事項】</p> 1. 第132回春期大会実行委員会委員(案)および予算(案)に関する件 2. 規程改定に関する件 3. 会員異動、委員交代に関する件 4. 材料戦略委員会・企画委員会委員交代に関する件 <p>【報告事項】</p> 1. 第130回春期大会決算報告に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 5-6月開催の常設委員会報告 4. 参与会(7月6日)開催案内 5. 入会案内パンフレット更新	<p>【審議事項】</p> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。支部企業奨励賞は企業奨励賞に変更することで承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。 5. 新パンフレット配布。
第41回	28年9月30日	<p>【審議事項】</p> 1. 軽金属論文賞・論文新人賞、小山田記念賞、高橋記念賞、躍進賞、奨励賞、女性未来賞選考に関する件 2. 規程改定に関する件 3. 会員異動・常設委員会委員変更の件 <p>【報告事項】</p> 1. HP改定に関するアンケート実施報告 2. 人材育成事業たたき台検討状況 3. 他学会との協賛事業に関する件 4. 7月・9月の常設委員会報告 5. 日本アルミニウム協会との出向契約改訂	<p>【審議事項】</p> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 一部修正し全員異議なく承認可決。 3. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。 5. 資料に基づき報告。
第42回	28年10月25日	<p>【審議事項】</p> 1. 学会賞・功労賞・功績賞選考委員に関する件 2. 中間決算報告 3. 会員異動に関する件 <p>【報告事項】</p> 1. 支部中間活動報告 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 10月開催常設委員会報告 4. エネルギー利用技術作品コンテスト表彰に関する件	<p>【審議事項】</p> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。鎌土理事に選考一任。

第 43 回	29 年 1 月 31 日	【審議事項】 1. 軽金属希望の星賞、企業奨励賞選考に関する件 2. 第 133 回秋期大会実行委員会委員構成(案)および予算書(案)に関する件 3. 研究部会・新設の件 4. 支部長交代に関する件 5. 平成 29 年度支部費配賦額に関する件 6. 各種規程類の新設・改定に関する件(定款、理事会規程、旅費・交通費規程) 7. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 第 131 回秋期大会収支報告の件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。
第 44 回	29 年 2 月 28 日	【審議事項】 1. 平成 29・30 年度役員に関する件 2. 第 20 回軽金属学会賞に関する件 3. 第 19 回軽金属学会功労賞に関する件 4. 第 15 回軽金属功績賞に関する件 5. 名誉会員・永年会員推薦に関する件 6. H29 年度特別維持委員会会費に関する件 7. 技術参与委嘱に関する件 8. 会員異動に関する件 9. 一般社団法人平成 29 年度定時総会開催に関する件 【報告事項】 1. 平成 28 年度収支決算見込みおよび平成 29 年度予算案に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 8. 原案の通り全員異議なく承認可決。 9. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全異議なく予算案を確認した。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。
第 45 回	29 年 3 月 28 日	【審議事項】 1. 平成 29 年度事業計画に関する件 2. 平成 29 年度収支予算に関する件 3. HP リニューアルの件 4. 規程の改定に関する件 5. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 支部平成 28 年度活動報告および平成 29 年度活動計画について 2. 研究部会平成 28 年度事業報告および平成 29 年度事業計画について 3. 他学会との協賛事業の件 4. 常設委員会報告の件 5. 第 20 回「エネルギー利用」技術作品コンテスト 6. 常設委員会出席率	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 全員異議なく、確認した。 4. 資料に基づき報告。 5. 東海支部に審査依頼。 6. 平均以下の委員会の原因対策要請。

3. 常設委員会

(1)総合計画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
維持会員増強 WG 第 7 回	28 年 4 月 27 日	1. 平成 27 年度中堅企業 R&D 支援事業報告 2. 支部企業奨励賞の本部表彰について 3. 入会案内パンフレット見直し、増刷について 4. 企業交流イベントについて(講演大会での企業交流会他) 5. 公設試の活用について	1. 前期活動を資料に基づき報告。WG 長交代を承認。 2. 総務委員会に規程類の改定を依頼。 3. 支部表彰、会員数修正し増刷。 4. 企業交流活発化策を継続協議。 5. 支部相談窓口の交代有無確認。

第 6 回	28 年 4 月 27 日	1. 中堅企業 R&D 支援活動について 2. 常設委員会平成 27 年度活動まとめと 28 年度活動計画 3. 総合計画委員会課題の進め方	1. 平成 27 年度活動結果を確認。 2. 各委員会活動報告・計画を確認。 3. 維持会員増強(3 年間で 20 社)、講演大会 2.5 日制他、人材育成、広報活動、国際化、論文投稿数増加、支部間格差について継続協議。
第 7 回	28 年 6 月 24 日	1. 中堅企業 R&D 支援活動について ・入会案内パンフレット増刷・改定 ・支部企業奨励賞の本部表彰の件 ・維持会員増強目標(支部長会意向) 2. 総合計画委員会課題 ・人材育成事業(総務委員会たたき台作成) ・HP 改定に関するアンケート(総務委員会) ・講演大会 2.5 日制(大会運営委員会) ・ICAA18 誘致(重慶 ICAA15 国際委員会状況報告)	1. 新パンフレットを 7 月 1 日から使用開始することで支部配布。企業奨励賞の本部表彰承認。支部維持会員増強目標値は努力目標値とする。 2. 各課題進捗を確認。人材育成たたき台作成 11 月。理事・常設委員用と一般会員用 HP アンケートを 7 月末まで WEB 方式で実施。132 回名古屋大会での 2.5 日制は中止し、対応案再検討。日本誘致は好意的に受け止められた。
第 8 回	28 年 9 月 30 日	1. 中堅企業 R&D 支援活動について 2. 講演大会 2 日制の内容見直し 3. 人材育成事業イベント案検討進捗 4. HP 改定に関するアンケート結果 5. 軽金属溶接協会ポスター表彰諾否検討結果	1. 上期実施状況を確認。 2. 支部長意向アンケート結果を確認。 3. HP へのリクルート情報サイト開設、科学実験教室の具体的検討を決定。 4. 集計状況、今後の展開を報告。 5. 保留回答を否決し、再検討を決定。
第 9 回	28 年 10 月 25 日	1. 支部活動中間報告(中堅企業支援活動状況) 2. 上期決算報告 3. H29 年度支部費配賦案 4. その他	1. 各支部長から活動報告。 2. 決算内容確認。 3. 配賦案承認。今後支部長合意確認。 4. 大会会期見直し、人材育成事業進捗状況報告。
第 10 回	29 年 2 月 28 日	1. 平成 28 年度決算予測および平成 29 年度予算案について 2. 人材育成事業について 3. HP 改定について 4. 大会会期について 5. 国際化アンケート、ALMA2018 について 6. HP アンケート、引継事項 7. その他 女性会員の会について	1. 原案のとおり確認。 2. リクルートサイト設置確認。 3. 検討経過確認。 4. 講演大会 2.5 日制再提案。 5. 大会での英語採用、ALMA 土曜セッション組入を検討。 6. 次回回答案提出。 7. 活動議論の場を設置することとした。
第 11 回	29 年 3 月 28 日	1. 平成 29 年度事業計画・予算案(第 2 次) 2. 支部 H28 活動報告と H29 活動計画 3. 常設委員会検討課題フォロー・協議	1. 原案のとおり確認。 2. 8 支部報告を確認。 3. 常設委員会課題まとめを実施。

(2)総務委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 7 回 総務・企画人材育成検討 WG	28 年 5 月 13 日	1. H28 年度製品供与・貸与について 2. 今後の人材育成事業について	1. 15 名の供与・貸与応募に送付決定。 2. 階層別人材育成事業たたき台作成の担当、スケジュール決定。関東支部見学会の中高教諭勧誘実施。
第 267 回	28 年 6 月 8 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告	1. 製品供与・貸与事業 15 件対応開始。人材育成たたき台作成は 11 月目標。 2. 希望の星賞、支部企業奨励賞、投稿規程、功労賞規程改定。入会案内パンフレット改訂内容報告。 3. HP 改定に関するアンケートを WEB 方式で実施検討。HP アクセスデータ 6 月から採取開始。学会紹介 PPT 案を確認。
第 8 回 総務・企画人材育成検討 WG	28 年 7 月 15 日	1. 階層別人材育成事業ビジョン・実施計画作成 2. H28 年度製品供与・貸与対応状況報告 3. 関東支部見学会(8/8)への中高教諭勧誘	1. 5 グループの事業調査報告。次回推奨イベント提案。 2. 16 件の対応状況確認。 3. 1 名勧誘成功

第 9 回 総務・企画人材育成検討 WG	28 年 9 月 7 日	1. 今後の人材育成事業について ①推奨イベント案(各メンバー報告) ②階層別人材育成事業ビジョン・実施計画作成 ③28 年度製品供与・貸与事業の反省事項 ④開催報告執筆依頼 ⑤関東支部見学会への中高教諭勧誘結果 ⑥他支部見学会への展開	1. 資料に基づき報告。 ①各委員案の報告。 ②HP へのリクルート情報サイト開設、科学実験教室を採択。 ③特になし。 ④16 大学に「はぐくむ」原稿依頼。 ⑤2 名参加。 ⑥各県教科研究部会を通じて勧誘。
第 268 回	28 年 9 月 7 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4 軽金属希望の星賞支部推薦枠 5. 第 131 回秋期大会ビール代協力のお願い	1. 同日開催の第 9 回 WG 内容を報告。 2. 投稿規程、英語版著作権規程、論文推薦委員会運営細則、小山田記念賞選考委員会運営細則改訂内容報告。 3. HP 改定に関するアンケート結果の集計方法とアクションを決定。 4. 昨年同様、支部推薦枠 25 名決定。 5. 7 社への寄付依頼を承認。
第 10 回 総務・企画人材育成検討 WG	28 年 11 月 18 日	1. 推奨人材育成イベントの進め方 ①リクルート情報サイト開設 ②科学実験教室 2. 28 年度製品供与・貸与事業	1. 資料に基づき具体案報告。 ①安価版サイト開設を検討。 ②先生向けアンケート実施決定。 2. はぐくむ 4 件会誌掲載。29 年度事業継続を決定。
第 269 回	28 年 11 月 30 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告	1. 第 10 回 WG 内容を報告。 2. 研究部会への学生参加に関する、規程細則、選考委員会運営細則(密接な関係の対処策追加)改定案報告。 3. HP 改定に関するアンケート結果まとめと HP 業者 2 社のプレゼン実施。
第 270 回	29 年 1 月 23 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4. 希望の星賞 2 次選考、企業奨励賞選考 5. 名誉会員、永年会員候補推薦	1. 第 11 回 WG 内容を報告。 2. 選考委員会運営細則(密接な関係の対処策追加)改定案を承認。 3. HP 改定に関するアンケート結果まとめと HP 業者 2 社のプレゼン実施。 4. 各々、28 名全員、企業 3 社を選考し、理事会上申。 5. 各々 2 名、10 名を選考し、理事会上申。
第 11 回 総務・企画人材育成検討 WG	29 年 3 月 10 日	1. 科学実験室用アルミ重量比較サンプルの件 2. ライトメタルリクルートサイト運用状況 3. H29 年度製品供与・貸与事業 4. 人材育成 WG 引継事項・課題	1. φ40mm×長さ 100mm の 5 本セット供与の見積、納期確認。 2. 3 月 1 日からオープンし、18 社掲載。アクセス数は 700 件程度。 3. 重量比較サンプル無償供与を追加し、3 月末募集開催。 4. WG 長が取りまとめる。
第 271 回	29 年 3 月 21 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4. H27・28 引継事項 5. 総会資料確認	1. 第 12 回 WG 内容を報告。 2. 組織委員会規程、国際交流委員会規程、ALMA HP 運用細則、支部規程、「軽金属」執筆要領の改定、新設を承認。 3. HP 改定に関するアンケート結果まとめと HP クレジット決済採用を決定。 4. 総務委員長案に一部追加。 5. 事業報告、計画資料の内容確認。

(3)企画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 6 回	28 年 5 月 13 日	1. シンポジウム企画案 2. セミナー企画案 3. 平成 28 年基礎講座案 4. 非会員向け企画	1. 99 回-102 回の企画案を協議した。99 回押出:12 月、101 回複合材:12 月前半金曜、102 回表面処理:2 月 17 日・ビュッフェディスカッション付き開催。 2. 入門編第 5 回、中級編第 3 回会告案決定。応用編第 1 回会告案確認。 3. 日程 9 月 15-16 日に変更。講師説明会実施決定。 4. 継続協議。次回担当決定。

		5. セミナー事前質問、アンケート内容見直し 6. 人材育成 WG 報告	5. 中級、応用編で実施。他学協会との比較を実施。アンケートの職種と業界分野分離。 6. 15 校申込。5 月中旬から送付開始。
第 7 回	28 年 7 月 14 日	1. シンポジウム企画案 2. セミナー・シンポジウム開催報告 3. 平成 28 年基礎講座案 4. 非会員向け企画 5. セミナー・シンポジウム参加非会員企業調査 6. セミナー地方開催 7. HP アンケート 8. 人材育成 WG 報告	1. 99 回加工と熱処理(11 月 28 日)追加。100 回押出(12 月 14 日)、101 回復合材(1 月)決定。103 回(自動車)、104 回(接合)来期実施。 2. 入門編 5 回、中級編 3 回、98 回シンポのアンケート解析・収支報告。 3. 講師変更、テキスト締切 8 月 30 日 4. 議論継続。次回、担当選任。 5. 平成 25-28 年開催イベントの参加非会員 68 名の企業調査。維持会員入会勧誘断念。 6. 入門・中級は以後、年 1 回開催。 7. イベント日程、参加感想など HP 掲載 8. 人材育成事業たたき台作成進捗報告。
第 8 回	28 年 9 月 13 日	1. シンポジウム企画案 2. セミナー開催報告、今後の予定 3. 平成 29 年基礎講座テキスト 4. HP アンケート 5. 人材育成 WG 報告	1. 101 回復合材(1 月 17 日)、102 回表面処理(2 月 17 日)会告案決定。105 回建築・土木検討を開始。 2. 応用編 1 回のアンケート解析・収支報告。入門編 6 回(3 月 3 日東京)、中級編 4 回(1 月 27 日京都)、応用編 2 回(3 月 10 日名古屋)を決定。 3. 会誌連載中の入門軽金属の生産技術を合本し、第 7 版として出版。 4. 総務委員会からのアンケート回答対応の要請待ち。 5. イベント 2 件報告。中核、年代別交流の場設定の企画を検討。
第 9 回	28 年 11 月 18 日	1. シンポジウム企画案 2. セミナー開催報告、今後の予定 3. 基礎講座 4. 人材育成 WG 報告	1. 103 回自動車(6 月 2 日)、105 回成形部会(7 月)、106 回建築土木を検討。世話人決定。 2. 会告案承認。1 年後に入門第 7 回東京、中級第 5 回東京開催決定。応用編は関西 6-7 月開催。 3. アンケート結果、収支報告・確認。29 年度の会場探索、講師事前説明なしなど確認。テキスト更新(連載講座原稿使用) 4. 第 10 回 WG の内容報告。
第 10 回	29 年 1 月 20 日	1. シンポジウム企画案 2. セミナー開催報告、今後の予定 3. 基礎講座 4. 人材育成 WG 報告	1. 105 回接合(9 月 22 日)、106 回建築土木(11 月)、107 回航空機・ロケットを検討。 2. 予告案承認。中級 5 回(東京)、応用 3 回(関西)を 6-7 月開催。30 年 1-3 月に入門 7 回、中級 6 回、応用 4 回を東京開催。 3. 5 月にテキスト更新(連載講座原稿使用)。 4. 第 11 回 WG の内容報告。
第 11 回	29 年 3 月 9 日	1. シンポジウム企画案・開催報告 2. セミナー企画案・開催報告 3. 基礎講座 4. HP アンケート回答、引継事項 5. 人材育成 WG 報告	1. 106 回建築土木(11 月)、107 回航空機・ロケットを検討。102 回表面処理報告。 2. 中級 5 回(東京)6 月 9 日、応用 3 回(関西)7 月 7 日開催。中級 4 回(京都)、初級 6 回(東京)開催報告。 3. 9 月 21 日、22 日につま恋開催。 4. 委員長代理案の追記修正。 5. リクルートサイト運用状況、重量比較サンプル供与事業内容報告。

(4)編集幹事会・委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 590 回 幹事会	28 年 5 月 18 日	1. 軽金属 5-6 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 7 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 著作権・規程 G 報告 2) 会報 G 報告 3) 特集号 G 報告 4) 連載講座 G 報告 5. その他	1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 1) マテトラ投稿規程で引用される著作権規程、利用ガイドラインの英語版外注翻訳。執筆要領案作成。 2) 大学系譜図は内部資料とし完了。奨学会 3 編転載申請。製品の解説 13 編に LNG、水素追加。私の一枚タイトル見直し、受賞者への依頼。 3) 2017 年 5 月特集号タイトル短縮、接合特集検討。年間レビュー取りまとめ役決定。 4) チタン 21 回連載の査読者決定。 5. 5 月 29 日編集委員会報告内容確認。書評 1 件承認。
平成 28 年 度第 1 回編 集委員会	28 年 5 月 29 日	1. 軽金属誌の現況 2. 特集号 3. 新連載講座 4. 記事活性化 5. 規程類	1. 現状を確認した。 2. 内容を確認した。 3. 内容を確認した。 4. 解説掲載状況、私の一枚、年間レビューの内容を確認。 5. 規程類改定内容を確認した。
第 591 回 幹事会	28 年 7 月 13 日	1. 軽金属 8-9 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 9 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 著作権・規程 G 報告 2) 会報 G 報告 3) 特集号 G 報告 4) 連載講座 G 報告 5. その他	1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 著作権規程、利用ガイドラインの英語版外注翻訳内容確認。9 月総務委員会提出。座長投稿推薦無料化とする投稿規程改定も同時提出。 2) 鑄造工学掲載解説の投稿依頼決定。受賞者への解説依頼案文次回作成。製品技術解説残案件の処置次回決定。 3) 2017 年 11 月特集号は複合材、2018 年 5 月号は来春の 132 回春期大会テーマセッション、2018 年 11 月は鉄道車両シンポジウム内容、2019 年 5 月号は接合を検討。 4) 生産技術連載の書籍発刊について監修者も含め 2017 年 6 月までに方針決定。 5. HP アンケート意見への対応を次回議論。電子図書化費用調査予定。
第 592 回 幹事会	28 年 9 月 13 日	1. 軽金属 9-10 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 11 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 著作権・規程 G 報告 2) 会報 G 報告 3) 特集号 G 報告 4) 連載講座 G 報告 5. その他	1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 座長投稿推薦無料化とする投稿規程総務委員会承認。座長依頼文案作成。英語版著作権規程も文言修正して承認。 2) 受賞者への解説依頼案文決定。製品技術解説 15 件確定。 3) 2018 年 5 月号は来春の 132 回春期大会テーマセッションの他、押出シンポジウムを検討。来年の年間レビュー項目、執筆者取り纏めを篠嶋 委員に依頼。 4) 刊行について、監修、内容追加を合同 WG で月末に結論付け。 5. 電子図書化費用調査。
第 593 回	28 年 10 月 27 日	1. 軽金属 11-12 月号の進捗状況報告	1. 進捗状況を確認した。

幹事会		<ul style="list-style-type: none"> 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 12 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 <ul style="list-style-type: none"> 1)著作権・規程 G 報告 2)会報 G 報告 3)特集号 G 報告 4)連載講座 G 報告 5. その他 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 <ul style="list-style-type: none"> 1)執筆要領の表記方法(基本、専門用語)案を協議継続。 2)超音波利用に関する解説連載企画 9 月開始。編集委員提案の解説企画の執筆者確定。軽金属業界の動向・現状の毎年掲載を検討。 3)2018 年 5 月号は押出シンポジウムを検討。 4)商業出版は取止め、基礎講座テキストとして 5 月発刊。 5. 第 2 回編集委員会内容確認。オンラインジャーナル化意見交換。
平成 28 年度第 2 回編集委員会	28 年 11 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 軽金属誌の現況 2. 特集号 3. 連載講座 4. 記事活性化 5. 規程類 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 現状を確認した。 2. 内容を確認した。 3. 内容を確認した。 4. 解説掲載状況、私の一枚、年間レビューの内容を確認。 5. 投稿規程改定、執筆要領改訂案を確認した。
第 594 回幹事会	28 年 12 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 軽金属 1-2 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 2 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 <ul style="list-style-type: none"> 1)著作権・規程 G 報告 2)会報 G 報告 3)特集号 G 報告 4)連載講座 G 報告 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> 1)131 回秋期大会投稿勧誘案件 2)委員会引継事項 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 <ul style="list-style-type: none"> 1)執筆要領の表記方法(基本、専門用語)案を協議継続。次回完成。 2)製品技術解説 1 月連載開始。前書検討。超音波利用に関する解説連載企画検討継続。 3)2018 年 11 月号は鉄道車両の軽量化を検討。 4)基礎講座テキストとして前書検討。 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> 1)座長提案の 58 件から勧誘案件 19 件を決定し、うち 2 件が投稿予定。座長提案件数削減(10 件程度目標)を検討。 2)次回検討。
第 595 回幹事会	29 年 3 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 軽金属 4-5 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 5 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 <ul style="list-style-type: none"> 1)著作権・規程 G 報告 2)会報 G 報告 3)特集号 G 報告 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> 1)132 回春期大会投稿勧誘案件 2)委員会引継事項 3)論文投稿数増加策(分冊化、スコーパス登録) 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 <ul style="list-style-type: none"> 1)執筆要領の表記方法完成。 2)超音波利用に関する解説連載 10 月開始。国際交流企画検討。 3)3 研究部企画を新規検討。3 協会に業界レビュー執筆依頼。 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> 1)座長提案件数削減(10 件程度目標)を座長依頼。 2)内容見直し。 3)日本塑性加工学会事例を検討。

(5)国際交流委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 5 回	28 年 6 月 22 日	1. ALMA2016 開催について	1. 委員出欠、会場予約状況、Meeting Agenda、Forum プログラム、プロフィール・アブストラクト入稿状況、表彰楯案、参加申込状況、参加者リストなど準備状況確認。Forum Chairman 決定、PRICM 会場でのチラシ配布追加。

		2. ICAA18(2022年)日本誘致 3. 学会のグローバル化策	2. 重慶での誘致プレゼン結果報告。誘致スケジュール、検討WGメンバー案確認。 3. 継続協議。
第6回	28年7月27日	1. ALMA2016開催について 2. ICAA18(2022年)日本誘致 3. 学会のグローバル化策	1. 講演者、配布物、会場準備など確認。 2. 検討WGメンバー案見直し。 3. 継続協議。
第7回	28年10月12日	1. ALMA2016開催報告 2. 学会のグローバル化策 3. その他	1. 収支決算、会議議事録、会誌開催報告記事、反省事項、各国代表者見直し、次回開催計画を報告・協議。 2. 他学会事例を参考に、会員へのアンケート、講演概要集への英文アブストラクト追加を検討。 3. 国際会議便り執筆依頼、第12回軽金属国際ワークショップ開催案内。
第8回	28年12月12日	1. 学会のグローバル化策 2. ALMA2018計画 3. ALMA HP(運用ルール、日本語版)	1. 大会講演概要、ポスター、発表スライドへの英語表記を段階的に進めることを念頭に置き、会員へのアンケート実施を計画。 2. 秋期大会との同時開催案を検討。 3. 情報開示を主体として、日本でHP運用する細則を作成し、海外メンバーに打診予定。日本語でのALMA紹介をHPに追加。
第9回	28年2月7日	1. ALMA HP(運用ルール、日本語版) 2. 国際交流・グローバル化 3. ALMA2018計画 4. その他	1. HP運用細作成。掲示板機能中止。 2. アンケート実施決定。国際化策と大会英語採用可否の設問。 3. 第135回秋期大会の土曜開催を計画。 4. 日本語HPへのALMA紹介、国際会議便り執筆者候補リスト作成。

(6)大会運営委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第1回運営WG	28年4月15日	1. 大会会期の再検討 2. ポスターセッション審査・採点方法の再検討 3. 英語セッションの導入の検討 4. プログラム編成方法マニュアル化	1. 2.5日制案作成 2. 採点方法は今後2回様子見。審査員削減は60名を越える場合検討。 3. ALMAセッション導入案検討。 4. 今後作成。
第4回	28年4月20日	1. 企業WG報告 ①第130回春期大会(大阪大)での企業交流会内容と出展依頼について ②第131回秋期大会(茨城大)での企業発表(アルミ協会賞受賞企業)計画 ③企業交流会充実(開催時間、告知方法、リクルート企画、参加企業メリット等) 2. 大会運営WG報告 ①大会会期2.5日制について ②ポスター賞審査・採点方法見直しについて ③英語セッション導入について	1. 春期、秋期大会での企業交流会詳細を確認。充実策を継続協議。 2. 第132回春期大会からの2.5日制移行可否を支部長会など関係部署に打診。その他、運営WG案承認。
第2回運営WG	28年7月15日	1. 大会会期の再検討 2. 軽金属溶接協会からのポスター表彰実施打診	1. 支部長への大会会期再検討に関する意向調査実施決定。 2. 学会側で審査した中に溶接関係の受賞者がいれば軽溶協表彰を実施することとしたが、大会会期検討を優先し、軽溶協への回答は保留。
第5回	28年7月26日	1. 第130回春期大会の決算および反省点 2. 第131回秋期大会の開催計画 3. 第132回春期大会について 1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿 2)テーマセッション募集日程	1. 決算および反省点について報告。 2. 資料に基づき報告、確認。 3. 第132回春期大会について 1)資料に基づき報告、確認。 2)資料に基づき報告、確認。

		<p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)第 130 回企業セッションアンケート結果</p> <p>2)第 131 回大会企業交流会計画</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)大会会期の再検討</p> <p>2)軽金属溶接協会ポスター表彰</p> <p>6. 若手の会、女性会員の会の報告</p> <p>7. 第 131 回大会プログラム編成について</p>	<p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)アンケート結果、改善案報告。</p> <p>2)アルミ協会賞受賞企業講演 4 件。</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)支部長への意向調査実施。</p> <p>2)回答保留。</p> <p>6. 両会からの報告を確認。</p> <p>7. 新講演分類にてプログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。</p>
第 6 回	28 年 9 月 29 日	<p>1. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)第 131 回企業交流会内容</p> <p>2)改善策</p> <p>2. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)大会会期の再検討</p> <p>2)運営マニュアル簡素化</p> <p>3. その他</p>	<p>1. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)10 社展示、4 社招待講演。会場設置案、ポスター、アンケート等内容確認。</p> <p>2)改善、発表促進、リクルート企画の担当を決め次回まとめ。</p> <p>2. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)支部長への意向調査結果。</p> <p>2)役割分担表を作成。</p> <p>3. 第 131 回、第 132 回大会準備状況確認。</p>
第 3 回運営 WG	28 年 12 月 16 日	<p>1. 大会会期の再検討</p> <p>2. 軽金属溶接協会からのポスター表彰実施</p> <p>3. 国際交流委員会検討進捗(国際化、ALMA2018)</p>	<p>1. 大会イベントに関する支部長意向への対応策協議。</p> <p>2. 第 132 回春期大会での実施方決定。</p> <p>3. 講演大会・ポスターセッションでの段階的英語化、アンケート、ALMA 金曜開催検討。</p>
第 7 回	29 年 1 月 25 日	<p>1. 第 131 回秋期大会の決算および反省点</p> <p>2. 第 132 回春期大会の開催計画</p> <p>3. 第 133 回秋期大会について</p> <p>1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿</p> <p>2)テーマセッション募集日程</p> <p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)企業セッションアンケート結果、改善策</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)大会会期見直し</p> <p>2)軽金属溶接協会ポスター表彰</p> <p>6. 若手の会、女性会員の会の報告</p> <p>7. 第 132 回大会プログラム編成について</p>	<p>1. 決算および反省点について報告。</p> <p>2. 資料に基づき報告、確認。</p> <p>3. 第 133 回秋期大会について</p> <p>1)資料に基づき報告、確認。</p> <p>2)資料に基づき報告、確認。</p> <p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)アンケート結果、改善案次回。</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)2.5 日制再提案。</p> <p>2)第 132 回大会実施承認。</p> <p>6. 両会からの報告を確認。女性会員の会の開催時間、議題見直し検討。</p> <p>7. 新講演分類にてプログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。</p>
第 1 回企業 WG	29 年 3 月 29 日	<p>1. ユーザー企業の学会発表促進策</p> <p>2. 企業交流会への出展促進策</p> <p>3. リクルート企画</p>	<p>1. 産側テーマセッションを企画し、招待講演と製品展示を依頼する。</p> <p>2. 秋期大会では日本アルミニウム協会賞受賞企業の招待講演と展示中心の企業交流会とする。</p> <p>3. 春期大会では企業リクルート中心の交流会とする。</p>

(7)研究委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 4 回	28 年 5 月 10 日	<p>1. 研究部会平成 27 年度事業報告・28 年度事業計画</p> <p>2. ロードマップ WG 報告</p> <p>3. 材料戦略委員会選任</p> <p>4. 新設部会部会長の件</p> <p>5. 部会報告書発刊</p> <p>6. 研究部会報告書印刷費の件</p> <p>7. 平成 28 年度部会費徴収</p> <p>8. 会誌への部会活動報告掲載</p> <p>9. 研究委員会発表順番</p>	<p>1. 11 部会の期末報告。欠席の 4 部会期末報告は次回。</p> <p>2. テーマ括り見直し案、担当案提示。メール審議で決定。</p> <p>3. 企業側委員を後日決定。</p> <p>4. 桑原先生から新部会説明。</p> <p>5. 3 部会の報告書回覧。</p> <p>6. オンデマンド印刷、オフセット印刷費用試算。ページ数、印刷部数から安価印刷方法決定を要請。</p> <p>7. 6 月より徴収開始。一括請求も実施。</p> <p>8. 平成 29 年 4 月号スタート。</p> <p>9. 中間報告順番案提示。</p>
第 5 回	28 年 7 月 28 日	<p>1. 研究部会平成 27 年度事業報告・28 年度</p>	<p>1. 3 部会の期末報告。欠席の 1 部会期末報</p>

		事業計画 2. ロードマップ WG 報告 3. 材料戦略委員会選任 4. 次期の若手研究者育成について 5. 部会シンポジウム開催案内 6. 会誌「軽金属」特集号掲載依頼 7. 中間報告書作成依頼 8. HP アンケート	告は次回。 2. 10テーマ括り、担当決定。部会ロードマップ作成中止。 3. 白井秀友氏に決定。 4. 学生の部会参加ルール化検討。 5. 3部会で開催。他部会の開催要請。 6. 2部会の特集掲載。他部会へ要請。 7. 10月7日提出依頼。 8. アンケート課題対応協議。
第6回	28年10月26日	1. 研究部会中間決算・事業中間報告 2. 新設部会設置提案 3. 研究部会への学生参加 4. ロードマップ WG 報告 5. その他	1. 7部会の状況を報告。チタン部会の来期研究費助成決定。 2. 加工と熱処理、ミュオン部会の後継部会設置を承認。 3. 旅費規程、部会運営細則を改定し、学生参加を承認。 4. 課題・担当割り当てを最終決定。 5. 研究委託契約による研究事業支出について知財権の扱いを協議。来期予算作成スケジュール報告。
第7回	29年1月27日	1. 研究部会事業中間報告 2. 新設部会設置提案 3. ロードマップ進捗 4. 部会紹介執筆依頼 5. 引継事項、HP アンケート	1. 7部会の状況を報告。 2. 加工と熱処理部会の後継部会設置を承認。 3. 10テーマの進捗報告。 4. 4月号掲載開始。 5. 次回、まとめ。

(8)支部長会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第1回	28年5月29日	1. 平成27年度支部収支報告書および平成28年度支部収支予算書および第1四半期決算資料提出期限 2. 中堅企業支援活動 3. 人材育成事業 4. 希望の星賞規程改定 5. 年間表彰スケジュール 6. 大会2.5日制 7. 会誌支部特集 8. 維持会員勧誘目標 9. 今後の開催予定地	1. 事務局より提示した資料確認。 2. 平成27年度実績報告とH28年度活動要請。支部企業奨励賞の本部表彰に関する規程・細則案承認。 3. 中高生向け見学会企画を要請。 4. 支部長合意が得られ、今年度実施。 5. 事務局提示資料を確認。支部企業奨励賞予定確認。 6. 支部長会として反対。金曜行事を大会運営委員会担当とすることで、北陸支部賛成。 7. 北陸支部2017年7月掲載を確認。 8. 3年で20社増強の支部目安提示。 9. 平成30年第134回春期大会までの開催日程、予定地を確認。
第2回	28年11月6日	1. 平成28年度支部第2四半期決算 2. 平成29年度支部費配賦額 3. 維持会員増強 4. 大会会期について 5. 今後の開催予定地 6. 年間表彰スケジュール 7. 支部長交代	1. 事務局より提示した決算資料確認。 2. 配賦額承認。関東支部配賦額見直。 3. 資料配布のみ。 4. 資料配布のみ。 5. 135回秋期大会芝浦工大決定。 6. 締切3週間前に事務局から連絡。 7. 関東、関西、九州支部交代。
第3回	29年2月28日	1. 関東支部費増加対策 2. 大会2.5日制、秋期大会関東支部担当見直 3. HP アンケート、引継事項	1. 若手支助成金増額決定。中堅企業支助成金減額を原資とすることとした。 2. 2.5日制了承。講演時間短縮の追加検討を大会運営WGへ要請。秋期大会担当は継続協議。 3. 委員長とりまとめを決定。

(9)参与会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第21回	28年7月6日	1. 見学会の実施	1. 昭和電工小山事業所 鋳造・押出工程 昭和アルミニウム 缶 缶胴・缶蓋工程

第 22 回	28 年 12 月 7 日	1. 見学会の実施 2. 講演会の実施 3. 委員会の開催	1. 産業技術総合研究所 つくば 2. 「高付加価値鋳造品の実現に向けた 3D プリント技術と CAE 技術の開発」、「弾塑性クリープ構成式によるアルミニウム合金鋳造時の熱応力予測と有効性的実験的検証」
--------	---------------	-------------------------------------	--

(10)組織委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	28 年 10 月 25 日	1. 平成 29・30 年度役員候補に関する件	1. 次期理事候補、会長、副会長、監事候補案を協議。
第 2 回	29 年 1 月 31 日	1. 平成 29・30 年度役員候補に関する件	1. 次期の役員候補および会長、副会長候補を選定、理事会に諮る。

[4] 許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡平成年月日	議事事項	履行状況
なし		

[5] 契約に関する事項

契約締結平成年月日	契約内容	契約先・委託者
28 年 11 月 15 日	押出組織制御研究部会受託研究契約書	長岡技術科学大学工学研究院 准教授 本間智之
28 年 11 月 25 日	押出組織制御研究部会受託研究契約書	日本大学機械工学科 教授 星野倫彦
28 年 11 月 29 日	押出組織制御研究部会受託研究契約書	千葉工業大学工学部機械サイエンス学科 准教授 寺田大将

[6] 寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[7] 主務官庁からの連絡および報告事項

連絡平成年月日	議 事 事 項	履 行 状 況
なし		

[8] その他重要事項 特になし

[9] 会員動向

() 内は内数

	名誉会員	永年会員	個人会員				合計
			正会員	学生会員	外国人	合計	
平成 29 年 4 月 1 日	54	95	1,530	262	(8)	1,792	1,941
平成 28 年 4 月 1 日	55	86	1,573	259	(7)	1,832	1,973
差引増減	△1	9	△43	3	(1)	△40	△32

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
平成 29 年 4 月 1 日	445	110	945	30	1,530
平成 28 年 4 月 1 日	457	110	969	37	1,573
差引増減	△12	0	△24	△7	△43

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持会員	維持会員	口 数								年間購読	
			10	8	6	5	4	3	2	1		合計
平成 29 年 4 月 1 日	5	130	2	0	0	0	1	3	17	107	174	68
平成 28 年 4 月 1 日	5	129	2	0	0	0	1	3	16	107	172	57
差引増減	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2	11

[10] 事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。